

令和2年度

# 名古屋市美術館年報

2 0 2 0

## 目次

序	1
沿革	2
展覧会事業	3
1 常設展	3
(1)名品コレクション展	4
(2)特別展示	6
2 特別展	8
教育普及事業	24
1 教育プログラム	24
1 一般成人対象の事業	25
(1)講演会・解説会	25
(2)コレクション解析学	25
(3)パフォーマンス・ワークショップ	25
2 子ども対象の事業	26
(1)学校休業日の体験活動の推進	26
(2)芸術と科学の杜	26
3 学校対象事業	27
(1)ボランティアによる学校等団体向け ガイドトーク	27
(2)アートカード貸出実績	27
(3)出前アート体験	28
(4)就業・職業体験及び 職場訪問受け入れ	29
2 ボランティア	30
(1)ボランティア登録者	30
(2)定例会	30
(3)ガイド活動	30
(4)サポート活動 系の活動	30
(5)第11期ボランティア養成講座内容	31
3 学生向け優待事業	32
(1)美術館学生メンバーズ	32
(2)高校生サポーター事業	32
4 協力会	33
5 図書室	33
6 出版	34
資料	35
1 収集	35
(1)受贈	36
(2)資料収集状況一覧	41
2 保存・修復	42
3 調査・研究	44
4 貸出	46
5 寄附金	50
入館者一覧	51
組織・予算	52
1 組織図	52
2 美術館協議会	52
(1)名古屋市美術館協議会委員	52
(2)名古屋市美術館協議会開催状況	52
3 職員	52
4 運営予算	52

# 序

## PREFACE

名古屋市美術館の令和2年度の活動をまとめた年報を発行いたします。

令和2年度は、「コロナに始まりコロナに終わった1年間」でした。すでに前年度から広がり始めていた新型コロナウイルスの感染は、4月になるとさらに拡大の一途たどり、有名人の感染死が相次いで伝えられたこともあり、あらゆる活動が縮小、延期、中止などの変更を余儀なくさせられました。美術館ももちろん例外ではなく、展覧会を中止したり、休館を迫られる施設が全国的に広がっていきました。名古屋市美術館は当初4月25日からの「みんなのミュシャ」展によって年度の幕開けをする予定でしたが、新型コロナウイルスの感染は一向に収まる気配を見せず、会期中からの開幕も視野に入れながら検討を続けましたが、結局全く公開することなく終了となりました。その後の状況についても見通しが立たず、館内での協議を重ねた結果、12月から予定していた建物の改修工事を前倒しして行い、当面休館を続けることにしました。予定とは異なる期間での工事となったため、各方面との調整が必要となり、いつ完了して美術館を再開できるのかもすぐには結論が出せませんでした。秋口になって見通しが立ち、年内完了、年明けから開館という予定となりました。つまり1年間の内、3か月間だけの開館となったわけです。

世界中を巻き込んでの感染症の拡大という、ほとんど誰も経験したことのない状況の中で、すべてが手探りで進んでいきました。人と人との接触を避けることが最優先となり、あらゆる活動に制限が設けられましたが、特に美術館においては教育普及活動に大きな支障をきたしました。これまで展開してきた活動は、作品を前にしての、来館者と美術館スタッフの対面での交流を前提にしていたため、そのほとんどを中止せざるを得ませんでした。休館中はインターネット等を利用した普及活動も試みましたが、それはやむを得ないとはいえ、実物に触れることができる貴重な場所としての美術館の存在価値そのものを揺るがしかねない試みでもありました。結局この令和2年度の美術館の活動は、極めて限定的なものとなり、例年と比べてもはるかに縮小されていることは、この年報をご覧になればすぐにご理解いただけるものと思います。あらゆる意味で異例尽くしの1年でした。

新型コロナウイルスの感染は現在も続いており、未だに終息の目処は立っていません。発生から1年半の時を経て、社会全体がある程度対処の方法を学習してはいますが、一方で慣れによるリスクの増大も付きまとっています。恐らく終息まではまだしばらくの時間を要し、それまでは一步一步慎重に前に進んでいくことを求められる日々が続くものと思われます。当たり前と思っていた日常が、どれほど大切なものであったかを感じさせてくれたという点では、この状況にも意味があったのかもしれませんが。その思いを忘れることなく、美術館の果たすべき役割を今一度見つめ直し、今後の運営に努めていきたいと思えます。どうぞこれまで以上のご指導、ご支援をお願いいたします。

2021年8月

名古屋市美術館

## 沿革 HISTORY

- 昭和52年12月 「名古屋市基本構想」策定、同構想において美術館建設をめざす
- 昭和56年1月 市長、年頭記者会見において、美術館の具体化検討を発表  
12月 市会、美術館建設のための調査費を議決
- 昭和57年2月 美術館調査委員会（委員長 豊岡益人愛知県立芸術大学学長）設置、美術館のあり方について諮問  
4月 「名古屋市市民文化振興のための基金に関する条例」制定
- 昭和58年1月 美術館調査委員会「名古屋市美術館（仮称）基本構想について」答申  
7月 美術館建設委員会（委員長 伊藤延男東京国立文化財研究所所長）設置  
8月 美術館基本設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）  
10月 美術館資料収集審査委員会設置、資料の収集を開始
- 昭和59年3月 建築基本設計完了  
9月 美術館実施設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
- 昭和60年1月 建築実施設計完了  
2月 名古屋市文化顧問（安達健二 東京国立近代美術館長）委嘱  
7月 美術館建設工事着手
- 昭和61年11月 「名古屋市美術館（仮称）収集作品展」を市博物館で開催
- 昭和62年4月 美術館開設準備顧問（谷隆夫 元名古屋市助役）委嘱  
7月 美術館本体工事完成  
10月 外構工事完成
- 昭和63年3月 「名古屋市美術館条例」制定  
4月 美術館顧問（河北倫明氏）委嘱  
4月 開館（館長 谷隆夫）
- 平成元年9月 博物館登録
- 平成5年9月 南側エレベーターの設置
- 平成7年6月 美術館長（劔持一郎 元名古屋市教育長）委嘱  
美術館顧問（谷隆夫 元館長）委嘱
- 平成10年10月 美術館参与（馬場駿吉 名古屋市立大学名誉教授）委嘱
- 平成11年6月 美術館長（小林龍郎 元名古屋市総務局長）委嘱
- 平成14年6月 美術館長（宮澤明倫 元名古屋市教育長）委嘱
- 平成18年6月 美術館長（渡辺豊彦 元名古屋市選挙管理委員会事務局長）委嘱  
美術館参与（石黒鏘二 名古屋造形芸術大学名誉教授）委嘱
- 平成21年5月 美術館長（松永恒裕 元名古屋市総務局長）委嘱  
6月 開館以来1,000万人目の入館者を迎える
- 平成26年5月 美術館長（横井政和 元名古屋市選挙管理委員会事務局長）委嘱
- 平成29年4月 美術館参与（早瀬弘親 元名古屋市鶴舞中央図書館長）委嘱
- 平成29年7月 美術館長（早瀬弘親 元名古屋市美術館参与）委嘱

本年度の常設展は、新型コロナウイルス感染症拡大防止と外壁改修工事により休館したため、当初予定していた展覧会のうち、名品コレクションⅠと特集「没後10年 荒川修作—初期平面の仕事」のみの開催となりました。

### 【エコール・ド・パリ】

第Ⅰ期 「シャガールの『死せる魂』」

ロシアの小説家ニコライ・ゴゴリ（1809-1852）の傑作『死せる魂』第一部の挿絵として、マルク・シャガール（1887-1985）が制作した銅版画96点のうち、物語の後半から選んだ17点を展示しました。また、海老原喜之助、荻須高德、藤田嗣治といった日本人をはじめ、スーチン、パスキン、モディリアーニといった作家の油絵を展示しました。

第Ⅱ期 「人間の出会い」：中止

第Ⅲ期 「風景画における空の表現」：中止

### 【メキシコ・ルネサンス】

第Ⅰ期 「革命と美術」

1910年～17年のメキシコ革命を経て、1922年には政府と美術家が提携し、新しい国の精神とメキシコの文化と歴史を壁画にして広く民衆に伝えようとする「壁画運動」が始まります。特に当時は識字率も低く、文字を十分に読むことのできない人々を含め、すべての国民に向けて多くの壁画が制作されました。本展では、壁画運動の中心的存在だったオロスコ、シケイロス、リベラの作品を展示し、壁画に描かれた題材や内容をひもときました。

第Ⅱ期 「人間のちから」：中止

第Ⅲ期 「ポサダ メキシコと骸骨」：中止

### 【現代の美術】

第Ⅰ期 「アート of 喚起力」

河口龍夫は2008年10月16日の夜、当館地下の展示室の闇を鉄の容器に閉じ込め作品にしました。《Dark Box 2008》は今もその闇を保ち続けています。河原温は、1982年から100万年後までを印字し《百万年—未来》を制作しました。永遠の闇、100万年後の未来—私たちに様々な思いや感情を引き起こす作品体験を楽しんでいただきました。

第Ⅱ期 「身体のかたち」：中止

第Ⅲ期 「イメージの引用 コラージュの妙」：中止

### 【郷土の美術】

第Ⅰ期 「日本画の風景」

所蔵作品の近代日本画の中から、風景が描かれた作品を紹介しました。石川英鳳、川合玉堂、喜多村麦子、平岩三陽、山元春拳といった画家が描いた自然の表情や四季の風情はもちろん、伝統的様式美に写実性などを巧みに取り入れ、個性豊かに表現した作品をお楽しみいただきました。

第Ⅱ期 「身体のごき」：中止

第Ⅲ期 「パンリアル美術協会」：中止

特集では「没後10年 荒川修作—初期平面の仕事」を開催しました。名古屋市出身の荒川修作（1936-2010）は、1961年に渡米。それ以降はニューヨークを拠点に、パートナーのマドリン・ギンズ（1941-2014）とともに美術の枠組みに収まらない活動を行いました。本展では、当館に寄託いただいている5点に収蔵作品2点を加えて、形式としての図式絵画を完成させていく荒川の初期平面の仕事を紹介しました。

特集 佃政道：次年度に延期

常設企画展 日比遊一写真展：次年度に延期

# (1)名品コレクション展

Selected Works from the Collection of  
Nagoya City Art Museum

## 名品コレクション展 I

会期：2021年1月5日(火)～3月14日(日)

常設展示室 1・2

☆：特別出品 \*：寄託作品

I：[前期] 2021年1月5日(火)～2月3日(水)

II：[後期] 2021年2月6日(土)～3月14日(日)

### 出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	
<b>コレクション解析学</b>						
1	富澤有為男	姉	1928	油彩・キャンヴァス	91.0×72.8	I・II
2	富澤有為男	[風景]	c.1929-30	油彩・キャンヴァス	37.2×45.3	I・II

### エコール・ド・パリ:シャガールの『死せる魂』

1	伊藤 廉	A.E.氏の肖像	1929	油彩・キャンヴァス	100.8×81.0	I
☆ 2	海老原喜之助	冬	1928	油彩・キャンヴァス	86.0×114.0	I
* 3	荻須高德	エドガー・キネ通りの市場	1929	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0	I
* 4	荻須高德	引越屋	1930	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0	I
5	荻須高德	サンドニ川岸	n.d.	油彩・キャンヴァス	73.2×91.7	II
* 6	藤田嗣治	裸婦	1928	油彩・キャンヴァス	73.0×101.0	I
7	藤田嗣治	自画像	1929	油彩、鉛筆、金箔・キャンヴァス	81.4×65.5	II
* 8	藤田嗣治	猫を抱く少女	1949	油彩・キャンヴァス	70.0×51.5	I
9	三岸節子	雷がくる	1979	油彩・キャンヴァス	89.0×116.0	I
10	キスリング	マルセル・シャンタルの肖像	1935	油彩・キャンヴァス	116.0×81.0	II
11	マルク・シャガール	『死せる魂』より 72 チーチコフの朝の支度	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
12	マルク・シャガール	『死せる魂』より 73 舞踏会にあらわれたチーチコフ	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
13	マルク・シャガール	『死せる魂』より 74 知事邸での舞踏会	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
14	マルク・シャガール	『死せる魂』より 75 ノズドリョーフの暴露	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
15	マルク・シャガール	『死せる魂』より 76 街灯の傍らの番人	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
16	マルク・シャガール	『死せる魂』より 77 感じの良い婦人と何ごとにつけても感じのよい婦人	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
17	マルク・シャガール	『死せる魂』より 78 知事夫人は娘を叱りつける	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
18	マルク・シャガール	『死せる魂』より 80 裸で逃げ出す	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
19	マルク・シャガール	『死せる魂』より 81 やせ細った役人たち	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
20	マルク・シャガール	『死せる魂』より 82 役人たちの密談	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
21	マルク・シャガール	『死せる魂』より 84 検事死す	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
22	マルク・シャガール	『死せる魂』より 85 歯痛	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
23	マルク・シャガール	『死せる魂』より 86 チーチコフはひげを剃る	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
24	マルク・シャガール	『死せる魂』より 87 門番はチーチコフを通さない	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
25	マルク・シャガール	『死せる魂』より 88 われらが英雄は旅支度をする	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
26	マルク・シャガール	『死せる魂』より 89 検事の葬列	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
27	マルク・シャガール	『死せる魂』より 96 夕暮れのトロイカ	1923-25(1948)	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	28.0×38.0(紙サイズ)	I・II
28	ハイム・スーチン	鳥のいる静物	c.1918-19	油彩・キャンヴァス	60.0×81.5	II
29	ジュール・パスキン	クララとジュヌヴィエーヴ	1925	油彩・キャンヴァス	92.0×73.0	II
30	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c.1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4	II
31	モーリス・ユトリロ	マルカデ通り	1909	油彩・キャンヴァス	60.3×81.3	II

## 現代の美術：アートへの喚起力

1	浅野弥衛	タマゴのMetaphor 1	1993(1975.9)	エッチング(凸版)・紙	23.9×18.0	I・II
2	浅野弥衛	タマゴのMetaphor 2	1993(1975.9)	エッチング(凸版)・紙	23.9×18.1	I・II
3	浅野弥衛	タマゴのMetaphor 3	1993(1975.9)	エッチング(凸版)・紙	23.9×18.0	I・II
4	浅野弥衛	タマゴのMetaphor 4	1993(1975.9)	エッチング(凸版)・紙	23.9×18.0	I・II
5	浅野弥衛	タマゴのMetaphor 5	1993(1975.9)	エッチング(凸版)・紙	23.8×18.1	I・II
6	浅野弥衛	タマゴのMetaphor 6	1993(1975.9)	エッチング(凸版)・紙	23.7×17.9	I・II
7	浅野弥衛	タマゴのMetaphor 7	1993(1975.9)	エッチング(凸版)・紙	23.8×18.0	I・II
8	浅野弥衛	タマゴのMetaphor 8	1993(1975.9)	エッチング(凸版)・紙	24.0×17.9	I・II
9	浅野弥衛	タマゴのMetaphor 9	1993(1975.9)	エッチング(凸版)・紙	24.0×18.1	I・II
10	荒川修作	35フィート×7フィート6インチ、126ポンド No.2	1967-68	アクリル、コラーージュ・キャンヴァス7パネル	225.0×1067.5	I・II
11	河口龍夫	Dark Box 2008	2008	鉄、闇	37.0×60.0×35.0	I・II
12	河原 温	百万年—未来	1982	ゼロックスコピー、ルーズリーフバインダー 10巻	各30.5×22.8×7.6	I・II
13	福岡道雄	untitled	1978	木、FRP	104.0×40.0×45.5	I・II
14	舟越 桂	「かたい布はときどき話す」のためのドローイング	1988	木炭、鉛筆・紙	97.0×86.3	I・II
15	水谷勇夫	さらしもの	1961	紙本着彩	162.0×130.0	I・II
* 16	吉本作次	サヴォナローラII	1985	ペンキ、クレヨン、土・キャンヴァス	227.8×288.5	I・II
17	エドワード・アーリントン	サチュルヌス	1988	インク、乳剤・紙、キャンヴァス	183.0×244.0	I・II
18	アンゼルム・キーファー	シベリアの女王	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	I・II
19	ラインハルト・サビエ	赤い星の夜	1996	クレヨン、グアッシュ・紙	104.3×96.0	I・II
20	ラインハルト・サビエ	少年兵I	2003	デジタルプリント・紙	65.0×59.0	I・II
21	フランク・ステラ	説教	1990	ミクストメディア・アルミニウム	345.5×365.8×139.7	I・II
22	エドワード・ルッシェ	20世紀	1988	油彩・キャンヴァス	150.0×368.0	I・II

## メキシコ・ルネサンス：革命と美術

1	ホセ・クレメンテ・オロスコ	修道士とインディオ	1926	リトグラフ・紙	31.6×26.5	I・II
2	ホセ・クレメンテ・オロスコ	レクイエム	1928	リトグラフ・紙	29.8×40.0	I・II
3	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9	I・II
4	ホセ・クレメンテ・オロスコ	女たちII	1935	リトグラフ・紙	31.0×42.7	I・II
5	ホセ・クレメンテ・オロスコ	白い神々	c. 1947	油彩・メゾナイト	71.0×91.5	I・II
6	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・ブリキ	14.9×11.0	I・II
7	ダビッド・アルファロ・シケイロス	独立 1818年	1941	インク、デューコ・紙、キャンヴァス	51.7×99.0	I・II
8	ダビッド・アルファロ・シケイロス	征服者ケンタウロス	1945	リトグラフ・紙	75.0×55.0	I・II
9	ダビッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの肖像	1947	ピロキシリン・メゾナイト	75.5×62.0	I・II
10	ダビッド・アルファロ・シケイロス	ビルバオとガルバリノ	1957	リトグラフ・紙	88.3×74.7	I・II
11	ダビッド・アルファロ・シケイロス	奴隷	1961	アクリル・板	80.2×61.2	I・II
12	ディエゴ・リベラ	エミリアーノ・サパタ	1932	リトグラフ・紙	57.5×40.3	I・II
13	ディエゴ・リベラ	野外学校	1932	リトグラフ・紙	38.9×53.8	I・II
14	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(3層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3	I・II
15	ディエゴ・リベラ	ホコの葬列	n. d.	油彩・キャンヴァス	59.7×69.0	I・II
16	北川民次	トラルバム霊園のお祭り	1930	油彩・キャンヴァス	99.5×89.8	I・II

## 郷土の美術：日本画の風景

1	石川英鳳	田園風景	1920s	絹本着彩	57.0×127.0	I・II
2	石河有鄰	青緑蓬莱仙境図	1933	絹本着彩	125.0×41.7	I・II
3	川合玉堂	秋嶺白雲	c. 1940	絹本着彩	79.0×99.6	I
4	川合玉堂	溪村浅春図	1940-50s	絹本着彩	51.5×30.0	I・II
5	喜多村麦子	秋暮—京都淀川漁夫—	1924	紙本墨画	110.0×120.0	I・II
6	佐藤空鳴	晩春風景図	1929	絹本着彩	84.5×101.0	II
7	清水有声	椿咲く島	1920	絹本着彩	203.4×85.3	I・II
8	平岩三陽	山は粧ふ	1937	紙本着彩	167.5×170.5	I・II
9	水島 裕	風景(たき火)	1930s	紙本墨画淡彩	43.0×50.0	I・II
10	水野清亭	清水陽春	n. d.	紙本着彩	172.8×82.0	I・II
11	山元春挙	観瀑之図	1910-20s	絹本墨画着彩	71.4×87.3	I・II
12	横山葩生	高原の秋	1923	紙本着彩	64.5×84.0	I・II
13	横山葩生	晴れたる日	1935	絹本着彩	166.0×191.0	I・II

## (2)特集展示

### Special Exhibition from the Collection of Nagoya City Art Museum

#### 没後10年 荒川修作—初期平面の仕事

Arakawa Shusaku: Early Paintings

会期：2021年1月5日(火)～3月14日(日)

#### 会場

常設展示室3

#### 協力

荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所(株式会社コーデノロジスト)

#### リーフレット

A3両面二つ折り 4ページ

執筆編集:角田美奈子(名古屋市美術館学芸員)

協力:荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所(株式会社コーデノロジスト)

発行:名古屋市美術館

#### 内容

名古屋市に生まれ、第二次世界大戦後の復興期を経て高度成長期へと移行する1950年代の日本で前衛的な美術活動に参加し、1961年に渡米して以降、現代の美術表現の在り方の地平を切り開いてきた荒川修作(1936-2010)は、この地域の美術はもとより、日本と世界の同時代の美術を考える上で欠くことのできない存在として名古屋市美術館の設立準備の段階から収集対象作家となっており、その作品は名古屋市美術館のコレクション(収集作品)の主要な位置を占めている。

日本において「死すべきもの」である人間を主題として作品にしていた荒川は、渡米以降、パートナーのマドリン・ギンズ(1941-2014)とともに人間についての考察を深め、知覚や思考の在り方とそれを改変する方法を図式(ダイアグラム)として描く平面(絵画)作品を制作するようになり、更にはそれらの方法を現実に体験するための装置としての立体作品から《養老天命反転地》(1995年)や《三鷹天命反転住宅》(2005年)などの建築的な大きさを持つ作品をも手掛けるようになっていく。

名古屋市美術館は、所蔵するすべての荒川作品16点に岐阜県美術館所蔵の2点を加えて2005年に「荒川修作を解説する」展を開催し、身体は「死すべきもの」であることを免れない人間が、精神において「死なないため」の方策を提示する荒川とギンズの創作の歩みの一端を紹介した。また、2010年に荒川が亡くなったあと、本展でも展示紹介するエステート・オブ・マドリン・ギンズ所蔵の5点の作品を受託し、2012年に館の所蔵作品2点を加えて常設企画展「荒川修作の“MISTAKE”」を開催している。

受託の5作品は常設展で折々に展示紹介しているが、全点を一度に紹介することは「荒川修作の“MISTAKE”」展以降なかった。この度の展示は、荒川の没後10年に際して、これら5点の受託作品

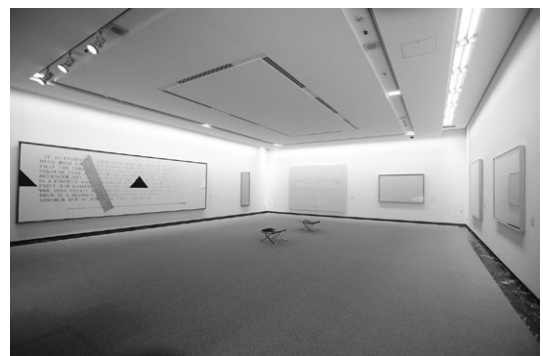
に2点の所蔵作品を加えて、形式としての図式絵画を完成させて行く途上にある荒川の初期平面の仕事を紹介した。「荒川修作の“MISTAKE”」展では、ひとつの頂点を示した作品として《35フィート×7フィート6インチ、126ポンド No.2》(1967-68年)を取り上げたが、ここでは《忘れるということ(掘り起こされて出し尽くしていること)》(1973-74年)を紹介した。

1960年代から70年代なかばまでに制作されたこれらの作品によって、建築的な作品へと繋がる荒川の創作の始まりにあった思考と試行の成果に改めて意識を向ける機会とした。

この展示は2020年4月25日(土)から6月28日(日)の会期で実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症と改修工事への対応により会期を改めて実施した。



会場入口看板



会場風景



## 出品作品

No.作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	所蔵
1 荒川修作	地図を作ることの報告	1961-62	油彩、アクリル、鉛筆・キャンヴァス	122.0×183.0	エステート・オブ・マドリン・ギンズ、 名古屋市美術館受託
2 荒川修作	彫刻すること No.3	1962-63	油彩、アクリル、鉛筆・キャンヴァス	152.5×183.0	エステート・オブ・マドリン・ギンズ、 名古屋市美術館受託
3 荒川修作	無題	1963	油彩、アクリル、鉛筆・キャンヴァス	122.0×183.0	エステート・オブ・マドリン・ギンズ、 名古屋市美術館受託
4 荒川修作	最後の次	1966-67	油彩、アクリル・キャンヴァス	244.0×327.0 (2パネル、各244.0×163.5)	エステート・オブ・マドリン・ギンズ、 名古屋市美術館受託
5 荒川修作	自画像	1967	油彩、鉛筆・キャンヴァス	173.0×62.0	名古屋市美術館
6 荒川修作	クールベのキャンヴァス	1972	油彩、アクリル・キャンヴァス	175.5×254.5	エステート・オブ・マドリン・ギンズ、 名古屋市美術館受託
7 荒川修作	忘れるということ (掘り起こされて出し尽くしていること)	1973-74	アクリル、コラージュ・キャンヴァス	195.5×609.9	名古屋市美術館

令和2年度は当初3本の特別展を予定していました。4月から6月にかけての「みんなのミュシャ」。7月から8月は「アートで旅するなつやすみ」。そして9月から11月にかけての「写真の都」物語です。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、「みんなのミュシャ」は開催できず、残る2本の特別展は会期を変更して開催となりました。「みんなのミュシャ」については、ポスターやチラシ等はすでに完成し、広報が始まっており、また作品も前会場の札幌から名古屋に到着していましたが、コロナの感染状況を見ながら主催者一同が開催すべきかどうかを協議しました。会期が始まった後も、ぎりぎりまで開催の可能性を探ったのですが結局無理と判断し、1日も開催しないままに終了となってしまいました。「ミュシャからマンガへ」というサブタイトルに見られるように、後代へのミュシャの影響を、幅広い視点から検証しようとする野心的な試みだっただけに、開催できずに終了してしまったことは大変に残念でした。

残る2本の特別展に関しては、当初12月から予定していた建物の改修工事を前倒して年内に終了し、年明けから開催することになりました。「写真の都」物語は、2月から3月にかけて、そして「アートで旅するなつやすみ」は「アートとめぐるはるの旅」とタイトルを変更して、年度末の3月下旬から、地下の常設展示室を利用して開催しました。

「写真の都」物語は、明治から昭和にかけて、半世紀を超える名古屋の写真の歴史を俯瞰する初めての試みとなりました。明治の絵画主義的な写真にはじまり、戦前の前衛写真を経て、戦後の学生写真運動に至るまで、名古屋は日本の写真の歴史の中で常に重要な役割を果たして来ました。本展では500点を超える写真作品と雑誌等の資料を駆使して、その歴史の全貌を紹介しました。会場を埋め尽くす写真と資料を目の当たりにすると、名古屋が確かに「写真の都」であったことを実感させてくれる展示となりました。

家族でご覧いただくことを前提に準備した「アートで旅するなつやすみ」は、当初の意図をそのまま実現したいとの思いから、春休み期間を含む3月末からの会期として、タイトルも「アートとめぐるはるの旅」と変更して開催しました。また会場の都合から、地下の常設展示室を利用するという、やや変則的な展示となりました。コロナ禍の移動もままならない状況となったこともあり、美術館の作品を通して旅を楽しんでいただくというコンセプトを前面に打ち出し、また展示に沿ったワークブックを作成し、楽しみつつ考えながら鑑賞していただきました。展示作品は全て名古屋市美術館の所蔵品でしたが、普段滅多に展示しない作品も少なくなく、さらに常設展示室を利用したことで、かえって新鮮な印象を持たれた方も多くいらしたようです。

## 「写真の都」物語

### —名古屋写真運動史:1911-1972—

The Movement of Modern Photography  
in NAGOYA 1911-1972

会期：2021年2月6日(土)～3月28日(日)

#### 会場

企画展示室1・2

#### 主催

名古屋市美術館、毎日新聞社、名古屋テレビ放送、読売新聞社

#### 後援

名古屋市立小中学校PTA協議会

#### 助成

ポラ美術振興財団、三菱UFJ信託地域文化財団

#### 観覧料

一般:1,200円(1,000円)、高大生:800円(600円)

中学生以下無料 \* ( )内は20名以上の団体および前売り料金

#### 内容

名古屋市美術館では1988(昭和63)年の開館以来、写真を20世紀以降の重要な表現メディアとして位置づけ、展覧会や収集活動を行ってきた。とくに、地元名古屋の写真表現に関しては、その歴史的動向を探り、作家と作品の調査を行い、その成果として展覧会を開催し、作品資料の収集を行ってきた。

近代名古屋の写真表現は、1920年代に日本のピクトリアリズム(絵画主義的写真)をけん引した(愛友写真倶楽部)に始まる。伊良湖岬や日本アルプス等、海と山に近く、撮影地に恵まれた当地の写真家たちは、風景写真の新たな境地を開拓して行った。当初、「旦那衆」の道楽として興った写真の趣味は、1920年代半ばには広くアマチュアに拡がり、また一般の人々の間でも人生の節目に記念撮影に行く習慣が定着、1925年の時点で市内には45の写真館と9軒の写真材料店が営業していたが、その数は全国的に見てもかなり多いものだった。1930年半ばに入ると、名古屋に於いてアマチュア向け月刊写真雑誌が創刊され、その動向が全国に向けて発信されることになる。

1930年代末に「前衛写真」と呼ばれた名古屋発信の表現が全国を席卷するが、戦時に於ける思想統制とともにその運動は分裂と終息を余儀なくされ、やがて戦後にはシュルレアリスム(超現実主義)の思潮が復活、主観を強調したその表現は、社会生活を凝視するリアリズム運動と「鎚を削る」こととなる。

写真家・東松照明(1930-2012)の登場は、名古屋にとっても新たな起点となった。東松が中心となって組織された(全日本学生写真連盟)(1952年5月結成)に先立ち、名古屋ではすでにその前年1951年11月に(中部学生写真連盟)が始動している。1959年には同連盟に「高校の部」が設けられ、やがて、大学・高校ともそれぞれが独自に機関誌を立ち上げるなど、名古屋は一躍、学生写真運動の一大拠点となった。



## 「写真の都」物語

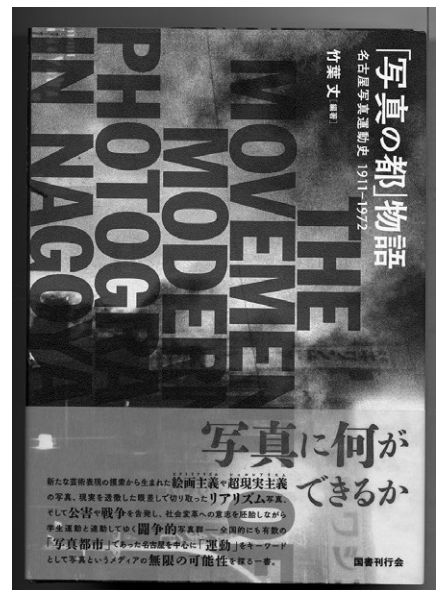
—名古屋写真運動史:1911-1972—

THE MOVEMENT  
OF MODERN PHOTOGRAPHY  
IN NAGOYA 1911-1972

2021.2.6 Sat. → 3.28 Sun.

名古屋市美術館  
Nagoya City Art Museum  
1-1-1, Sakae, NAGOYA 460-0001, JAPAN  
TEL: 052-222-0001 FAX: 052-222-0002  
http://www.nagoya-citymuseum.jp

ポスター



図録

このように連綿と続く名古屋の写真表現に於いてさらに特筆すべきは、彼等の活動が個々の作品の発表に止まるばかりでなく、機関誌や会報、写真集を出版し、自分たちの表現志向や意志を伝えようとしたことにある。各時代に出版された多種多様な資料群は、名古屋が全国でも屈指の「写真都市」であり続けたことを証明するものとも言えよう。

本展覧会では、名古屋に於ける近代100年の写真表現の展開を“運動体”として捉え、時代のなかで、思潮を反映し、社会に対抗しながら展開したその軌跡を、作品と資料によって辿る初めての試みとなった。

尚、本展覧会は当初、前年令和2年9月12日から11月1日を会期として予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策による政府ならびに愛知県の緊急事態宣言を受け、また同年11月より予定していた美術館の改修工事を早期に実施したため、開催を延期していたものである。

## 展示構成

- I. 写真芸術のはじめ—日高長太郎と〈愛友写真倶楽部〉
- II. モダン都市の位相—「新興写真」の台頭と実験
- III. シュールレアリスムか、アブストラクトか  
—「前衛写真」の興隆と分裂
- IV. “客観と主観の交錯”  
—戦後のリアリズムと主観主義写真の対抗
- V. 東松照明登場
- VI. 〈中部学生写真連盟〉—集団と個人、写真を巡る青春の摸索



会場風景

## 関連催事

[解説会] 展示構成に沿って、作品とその時代背景を解説した。

- 第1回 2月20日(土)「芸術写真を超えて—〈愛友写真倶楽部〉の内外」
- 第2回 3月6日(土)「前衛写真から主観主義写真へ—写真家たちの戦前／戦後」
- 第3回 3月20日(土・祝)「東松照明と〈中部学生写真連盟〉」

いずれも午後2時から

講師：竹葉 丈(名古屋市美術館学芸員)

会場：名古屋市美術館 2F 講堂

## 図録

「写真の都」物語 名古屋写真運動史1911-1972

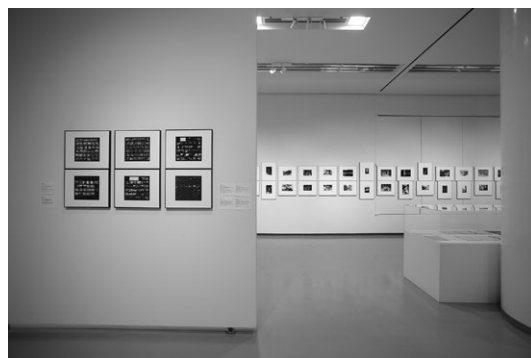
26.2×19.4cm 290頁

編著：竹葉 丈

発行：株式会社国書刊行会

装丁・デザイン：株式会社D\_CODE

[垣本正哉+河野素子+堂島徹]



会場風景

## 出品作品

番号	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	所蔵
<b>I. 写真芸術のはじめ—日高長太郎と〈愛友写真倶楽部〉</b>						
1	日高長太郎	木曾路の春	1920(大正9)年	ゴム印画	30.3×40.8	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
2	日高長太郎	春の海辺	1919(大正8)年	ゴム印画	29.8×40.8	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
3	日高長太郎	雨の夕	1918(大正7)年	ゴム印画	31.0×40.7	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
4	日高長太郎	山岳の雨	1918(大正7)年	ゴム印画	30.5×41.3	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
5	日高長太郎	斜陽	1914(大正3)年	ゴム印画	27.4×41.0	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
6	日高長太郎	朝の光	1920(大正9)年	ゴム印画	28.0×41.5	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
7	日高長太郎	松の木立	1925(大正14)年	ゴム印画	29.3×41.4	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
8	日高長太郎	あらしの前	1916(大正5)年	ゴム印画	20.7×29.3	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
9	日高長太郎	木陰	1921(大正10)年	ゴム印画	30.8×41.3	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
10	日高長太郎	海	1925(大正14)年	ゴム印画	30.3×40.4	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
11	日高長太郎	高雄風景	1926(大正15)年	ゴム印画	22.7×27.7	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
12	日高長太郎	晴れたる日	1914(大正3)年頃	ブロマイド	29.6×44.5	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
13	日高長太郎	高原の冬	1917(大正6)年	ゴム印画	30.2×40.1	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
14	日高長太郎	海	1925(大正14)年	ゴム印画	30.6×29.8	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
15	日高長太郎	冬の日	1913(大正2)年	カーボン印画	23.2×27.3	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
16	日高長太郎	寒む空	1915(大正4)年	ゴム印画	20.5×28.6	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
17	日高長太郎	嵐峡	1926(大正15)年	ゴム印画	22.8×27.9	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
18	日高長太郎	海	1924(大正13)年	ゴム印画	21.5×28.7	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
19	日高長太郎	冬	1915(大正4)年	カーボン印画	21.9×28.3	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
20	山本五郎	箱根附近	1919(大正8) /2020(令和2)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	10.7×14.9	
21	山本五郎	箱根附近	1919(大正8) /2020(令和2)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	14.9×10.7	
22	山本五郎	小田原附近	1919(大正8) /2020(令和2)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	10.7×14.9	
23	山本五郎	渋温泉附近	1920(大正9) /2020(令和2)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	10.7×14.9	
24	山本五郎	渋温泉附近	1920(大正9) /2020(令和2)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	10.7×14.9	
25	山本五郎	湯田中附近	1920(大正9) /2020(令和2)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	10.7×14.9	
26	山本五郎	赤倉附近	1920(大正9) /2020(令和2)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	10.7×14.9	
27	山本五郎	直江津附近	1920(大正9) /2020(令和2)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	10.7×14.9	
28	山本五郎	伊豆附近	1920(大正9) /2020(令和2)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	14.9×10.7	
29	山本五郎	伊豆附近	1920(大正9) /2020(令和2)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	10.7×14.9	

30	山本五郎	題不詳(少女之図)	1920(大正9) /2020(令和2)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	10.7×14.9	
31	日高長太郎	雨の小川	1912(明治45)年	ブロマイド	23.5×46.9	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
32	日高長太郎	盛夏の頃	1921(大正10)年	ゴム印画	30.5×41.1	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
33	日高長太郎	たそがれ	1914(大正3)年	カーボン印画	29.2×17.8	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
34	日高長太郎	朝の小川	1912(大正元)年	g.s.p.、台紙貼付	5.8×8.8	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
35	日高長太郎	題不詳(雪、積藁)	1912(大正元)～ 1914(大正3)年頃	オイル印画、台紙貼付	11.2×15.6	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
36	日高長太郎	秋	1912(大正元)～ 1914(大正3)年頃	g.s.p.、台紙貼付	9.4×13.5	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
37	日高長太郎	雨の小川	1912(大正元)年	g.s.p.、台紙貼付	11.2×15.6	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
38	日高長太郎	冬	1912(大正元)～ 1914(大正3)年頃	g.s.p.、台紙貼付	10.5×15.5	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
39	日高長太郎	さゆる秋	1912(大正元)～ 1914(大正3)年頃	g.s.p.、台紙貼付	9.7×13.9	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
40	日高長太郎	白樺	1925(大正14)年	ゴム印画	27.6×38.5	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
41	大橋松太郎	題不詳(雨の棧橋)	1918(大正7)年～ 1927(昭和2)年頃	ゴム印画	28.1×23.6	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
42	大橋松太郎	白樺	1918(大正7)年	ゴム印画	23.0×28.3	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
43	大橋松太郎	知恩院の秋	1918(大正7)年～ 1927(昭和2)年頃	ゴム印画	27.7×40.8	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
44	大橋松太郎	秋の田舎	1929(昭和4)年	ゴム印画	21.7×28.5	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
45	大橋松太郎	奈良の印象	1924(大正13)年	ゴム印画	40.4×28.3	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
46	大橋松太郎	春の海	1926(大正15)年	ブロムオイル印画	22.0×28.5	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
47	大橋松太郎	題不詳(農家)	1918(大正7)年～ 1927(昭和2)年頃	ゴム印画	28.9×39.8	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
48	大橋松太郎	寒村	1921(大正10)年	コロタイプ印刷	13.5×17.1	『白陽』第2巻第1号掲載
49	大橋松太郎	綱引く夕	1921(大正10)年	コロタイプ印刷	15.3×20.5	『白陽』第2巻第3号掲載
50	益子愛太郎	濱辺	1922(大正11)年	ゴム印画	32.3×41.6	名古屋市美術館蔵
51	益子愛太郎	秋嶺烟雲	1921(大正10)年	ゴム印画	32.8×41.2	名古屋市美術館蔵
52	益子愛太郎	農婦耕作	1926(大正15)年	ゴム印画	32.9×40.7	東京都写真美術館蔵
53	益子愛太郎	静かなる港	1922(大正11)年	ゴム印画	29.7×41.3	東京都写真美術館蔵
54	益子愛太郎	春の光	1920(大正9)年	コロタイプ印刷	14.6×19.7	『白陽』第1巻第6号掲載
55	松浦幸陽	朝日を受けて	c.1926 (大正15年頃)	ゴム印画	29.4×38.1	個人蔵
56	松浦幸陽	昇ちゃんの像	c.1929 (昭和4年)頃	ゴム印画	27.8×21.8	個人蔵
57	松浦幸陽	若葉の光	1922(大正11)年	コロタイプ印刷	13.9×15.2	『白陽』第1巻第4号掲載
58	榊原青葉	きよみづ	1919(大正8)年～ 1927(昭和2)年頃	ゴム印画	30.1×38.1	個人蔵
59	榊原青葉	白壁の光	1922(大正11)年	コロタイプ印刷	13.4×20.1	『白陽』第2巻第1号掲載
60	榊原青葉	電車道	1922(大正11)年	コロタイプ印刷	18.4×14.3	『白陽』第1巻第4号掲載

61-64	愛友写真倶楽部	『画集』第1輯～第4輯	第1輯:1916 (大正5)年 第2輯:1918 (大正7)年9月 第3輯:1920 (大正9)年8月 第4輯:1921 (大正10)年10月	冊子、 (第1輯)コロタイプ印刷、 (第2輯以後)グラビア 印刷	第1輯:29.5 ×21.7 第2輯:22.9 ×15.6 第3輯:26.1 ×18.3 第4輯:26.1 ×18.8	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
65-67	淵上白陽編輯発行、 白陽画集社	写真画集『白陽』全43冊の内、3冊	1922(大正11)年 6月創刊～1926 (大正15)年9月 終刊	冊子、コロタイプ印刷	29.5×23.3～ 36.8×27.2	名古屋市美術館蔵
68-69	高田皆義編集発行、 銀の壺社	芸術写真研究誌『銀乃壺』全8冊の内、2冊	1922(大正11)年 10月創刊～1924 (大正13)年3月 終刊(第3巻1号)	冊子、印画紙貼付、 コロタイプ印刷	36.3×27.1	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
70	愛友写真倶楽部	機関誌『愛友』	1925(大正14)年 4月創刊(月刊)～ 1935(昭和10)年 10月発行分まで 確認	冊子、印刷、リーフレット (月刊:4～6頁)	26.1×18.9	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
71	愛友写真倶楽部	『日高長太郎遺作集』	1926(大正15)年 7月1日	冊子、オフセット印刷	29.5×21.0	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)

## II. モダン都市の位相―「新興写真」の台頭と実験

72	海部誠也	野間にて	1936(昭和11) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 創刊号掲載
73	海部誠也	鉢と壺の構図	1936(昭和11) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラ』 第17巻第6号掲載
74	紅村清彦	一草	1938(昭和13) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.16号掲載
75	松浦幸陽	波切風景	1936(昭和11) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 創刊号掲載
76	佐溝勢光	秋の風	1936(昭和11) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 創刊号掲載
77	紅村清彦	ショー・ウィンドウとセルフ・ポートレート	1936(昭和11) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	紅村清彦著『スナップ写 真の写し方』掲載
78	紅村清彦	瀬戸大観	1936(昭和11) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	紅村清彦著『スナップ写 真の写し方』掲載
79	紅村清彦	平凡な風景	1937(昭和12) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	紅村清彦著『スナップ写 真の写し方』掲載
80	成田春陽	燈台のある風景	1938(昭和13) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.26号掲載
81	成田春陽	鶯の居る風景	1938(昭和13) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.22号掲載
82	成田春陽	雲のある風景	1938(昭和13) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.23号掲載
83	小足良之助	ひとときの美	1936(昭和11) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラ』 第17巻第6号掲載
84	小足良之助	秋刀魚	1936(昭和11) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.2号掲載
85	今井信男	網による女	1937(昭和12) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.12号掲載
86	永田二龍	線	1938(昭和13) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラ』 第17巻第6号掲載
87	高田皆義	鷲進する	1936(昭和11) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 創刊号掲載
88	稲垣泰三	立ち話	1938(昭和13) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.17号掲載
89	高田皆義	女	1937(昭和12) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.14号掲載
90	小此木光也	逍遙	1938(昭和13) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.16号掲載
91	高田皆義	海水浴場にて	1938(昭和13) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.22号掲載

92	高田皆義	夏の女	1939(昭和14) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.33号掲載
93	紅村清彦	バレエ「姫君と魔王」より01	1937(昭和12) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	紅村清彦著『スナップ写真の写し方』掲載
94	紅村清彦	バレエ「姫君と魔王」より06	1937(昭和12) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	紅村清彦著『スナップ写真の写し方』掲載
95	紅村清彦	バレエ「姫君と魔王」より07	1937(昭和12) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	紅村清彦著『スナップ写真の写し方』掲載
96	紅村清彦	バレエ「姫君と魔王」より05	1937(昭和12) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	紅村清彦著『スナップ写真の写し方』掲載
97	紅村清彦	バレエ「姫君と魔王」より09	1937(昭和12) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	紅村清彦著『スナップ写真の写し方』掲載
98	紅村清彦	バレエ「姫君と魔王」より11	1937(昭和12) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	紅村清彦著『スナップ写真の写し方』掲載
99	小島祐三	蠅	1939(昭和14) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.26号掲載
100	渡邊政勝	夏の夜	1937(昭和12) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.9号掲載
101	紅村清彦	セロファンを着た女	1937(昭和12) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	紅村清彦著『スナップ写真の写し方』掲載
102	紅村清彦	紙	1935(昭和10) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラ』 第17巻第2号掲載
103	木村秀利	冬の夜	1938(昭和13) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.17号掲載
104	佐溝勢光	GO STOP	1931(昭和6) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラ』 第17巻第6号掲載
105	佐溝勢光	題不詳	1937(昭和12) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.9号掲載
106	坂田稔	友の帰ったあと	1938(昭和13) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.17号掲載
107	佐溝勢光	題不詳	1937(昭和12) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.9号掲載
108	坂田稔	フोटグラフ・花	1937(昭和12)年頃	g. s. p.	55.9×46.2	個人蔵 (名古屋美術館寄託)
109	坂田稔	題不詳	1937(昭和12)年	g. s. p.	55.9×46.2	個人蔵 (名古屋美術館寄託)
110	山本勘助(悍右)	ある人間の思想の発展…霧と寝室と	1932(昭和7)年	g. s. p.、コラージュ	28.1×20.7	名古屋美術館蔵
111- 114	独立写真研究会	機関誌『独立』(A.1.～B.2.)	1931(昭和6)年11 月～1932(昭和7) 年4月、4号で終刊	印刷、小冊子(二つ折り)	17.9×39.1、 2枚8頁	個人蔵
115- 134	カメラマン社(名古屋)	月刊写真雑誌『カメラマン』No.1～No.49の内、20冊	1936(昭和11)年 10月創刊号～1940 (昭和15)年10月	冊子、グラビア印刷	28.1×20.7	個人蔵
135	カメラマン社(名古屋)	月刊写真雑誌『カメラマン』No.50号(最終号)	1940(昭和15)年 11月	冊子、グラビア印刷	28.1×20.7	東京都写真美術館蔵
136	紅村清彦著 アルス発行	『スナップ写真の写し方』	1937(昭和12)年 10月	書籍、グラビア印刷	18.9×15.5、 278頁	個人蔵
137	永田二龍著 アルス写真文庫45 アルス発行	『新しい風景写真』	1940(昭和15)年 10月	書籍、グラビア印刷	17.4×12.5、 72頁	個人蔵

### Ⅲ.シュルレアリスムか、アブストラクター「前衛写真」の興隆と分裂

138	高田皆義	池底の静物	1938(昭和13) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.26号掲載
139	高田皆義	野外静物2	1938(昭和13) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.26号掲載
140	高田皆義	静物	1939(昭和14) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.31号掲載
141	坂田稔	胎生	1939(昭和14) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.28号掲載
142	坂田稔	題不詳(筍の断面)	1938(昭和13)年～ 1940(昭和15)年頃	g. s. p.	46.7×56.8	個人蔵 (名古屋美術館寄託)



143	坂田稔	題不詳(水滴による構成)	1939(昭和14)年頃	g.s.p.	42.2×50.6	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
144	坂田稔	眼球が逃げる	1938(昭和13)年	g.s.p.	43.5×54.7	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
145	坂田稔	彩られた地殻	1940(昭和15)年	g.s.p.	33.5×54.8	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
146	坂田稔	嫉妬	1937(昭和12)年	g.s.p.	37.2×29.7	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
147	坂田稔	題不詳	1938(昭和13)年～ 1940(昭和15)年頃	g.s.p.	55.2×45.2	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
148	坂田稔	題不詳	1938(昭和13)年～ 1940(昭和15)年頃	g.s.p.	52.5×45.9	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
149	坂田稔	危機	1938(昭和13)年	g.s.p.	55.9×46.2	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
150	坂田稔	解放への慾求	1934(昭和9)年～ 1937(昭和12)年頃	g.s.p.	42.4×55.5	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
151	坂田稔	地殻創世	1934(昭和9)年～ 1937(昭和12)年頃	g.s.p.	45.4×55.8	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
152	坂田稔	球体について	1939(昭和14)年	g.s.p.	45.9×56.3	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
153	坂田稔	農家の土壁「なまこ」	1940(昭和15)年	g.s.p.	46.6×56.7	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
154	坂田稔	抱合曲線	1934(昭和9)年～ 1937(昭和12)年頃	g.s.p.	37.8×30.2	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
155	坂田稔	日本の建築に於ける美と秩序の部分	1940(昭和15)年	g.s.p.	42.1×50.5	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
156	坂田稔	無題	1940(昭和15)年	g.s.p.	56.6×46.9	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
157	木村秀利	壁	1939(昭和14) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.39号掲載
158	下郷羊雄	物体に依る夢の仮作	1939(昭和14) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.33号掲載
159	下郷羊雄	空漠の風景	1939(昭和14) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.29号掲載
160	下郷羊雄	オブジェとルミエール	1939(昭和14) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.29号掲載
161	田島二男	風のオブジェ	1939(昭和14) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.29号掲載
162	田島二男	題不詳	1934(昭和9)年	g.s.p.	36.1×38.5	名古屋市美術館蔵
163	田島二男	四つの眼	n.d.	g.s.p.	40.3×40.0	名古屋市美術館蔵
164	田島二男	培養された貌	1934(昭和9)年	g.s.p.	48.8×40.0	名古屋市美術館蔵
165	田島二男	シラノ	1939(昭和14)年	g.s.p.	54.7×46.0	名古屋市美術館蔵
166	田島二男	作品A—自然より	1940(昭和15)年	g.s.p.	47.1×45.8	名古屋市美術館蔵
167	稲垣泰三	マダムXの粉飾	1940(昭和15) /2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.33号掲載
168	下郷羊雄	超現実主義写真集『メセム属』	1940(昭和15)年 3月	書籍、グラビア印刷	18.3×12.9、 48頁	名古屋市美術館蔵
169	山本悍右	題不詳 (《伽藍の鳥籠》のためのヴァリエーション)	1940(昭和15)年	g.s.p.	18.1×27.2	名古屋市美術館蔵
170	山本悍右	題不詳	n.d.	g.s.p.	28.5×25.0	名古屋市美術館蔵
171	山本悍右	題不詳	n.d.	g.s.p.	17.6×13.8	名古屋市美術館蔵
172	山本悍右	題不詳	1938(昭和13)年	g.s.p.	30.4×25.6	名古屋市美術館蔵
173	山本悍右	作品	n.d.	g.s.p.	25.3×16.7	名古屋市美術館蔵

174	後藤敬一郎	題不詳	1938(昭和13)年頃	g. s. p.	43.6×56.2	名古屋市美術館蔵
175	後藤敬一郎	夏手袋	1939(昭和14)年	g. s. p.	28.0×12.0	名古屋市美術館蔵
176	後藤敬一郎	題不詳	1939(昭和14)年頃	g. s. p.	23.8×47.8	名古屋市美術館蔵
177	後藤敬一郎	ある極	1939年	g. s. p.	53.5×22.5	名古屋市美術館蔵
178	後藤敬一郎	最後の審判図	1935-40(昭和10-15)年頃	g. s. p.	55.5×45.2	名古屋市美術館蔵
179	後藤敬一郎	消滅する風景	1935-40(昭和10-15)年頃	g. s. p.	34.8×51.0	名古屋市美術館蔵
180	後藤敬一郎	題不詳	1935-40(昭和10-15)年頃	g. s. p.	54.0×43.0	名古屋市美術館蔵
181	後藤敬一郎	谷間の形態	1938-41(昭和13-16)年頃	g. s. p.	45.5×41.1	東京都写真美術館蔵
182	坂田稔	竹に取材せる	1939-40(昭和14-15)年頃	g. s. p.	56.6×46.9	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
183	坂田稔	農民家屋に就て	1940(昭和15)年	g. s. p.	43.4×53.2	個人蔵 (名古屋市美術館寄託)
184	高橋善一	壁	1939(昭和14)/2020(令和2)年	複写、インクジェット・プリント	35.4×28.0 (紙サイズ)	写真雑誌『カメラマン』 No.33号掲載
185	服部義文	禅寺より(1)	1938-39(昭和13-14)年	g. s. p.	33.0×41.8	東京都写真美術館蔵
186	服部義文	禅寺より(2)	1938-39(昭和13-14)年	g. s. p.	43.5×35.4	東京都写真美術館蔵
187	服部義文	禅寺より(3)	1938-39(昭和13-14)年	g. s. p.	40.6×34.0	東京都写真美術館蔵
188- 189	小此木光也編集発行	機関誌『廣角』第1号、第2号	1940(昭和15)年 5月、8月 2号で終刊	印刷、小冊子(二つ折り)	18.8×25.3、 2枚8頁	個人蔵

#### IV.“客観と主観の交錯”—戦後のリアリズムと主観主義写真の対抗

190	後藤敬一郎	不法な作為	1948(昭和23)年	g. s. p.	29.6×23.2	東京都写真美術館蔵
191	後藤敬一郎	題不詳(《痕》と子どものための習作)①	n. d./2021 (令和3)年	g. s. p.、オリジナル・ネガ からのニュープリント	61.0×50.8 (紙サイズ)	
192	後藤敬一郎	題不詳(《痕》と子どものための習作)②	n. d./2021 (令和3)年	g. s. p.、オリジナル・ネガ からのニュープリント	61.0×50.8 (紙サイズ)	
193	後藤敬一郎	題不詳(《痕》と子どものための習作)③	n. d./2021 (令和3)年	g. s. p.、オリジナル・ネガ からのニュープリント	61.0×50.8 (紙サイズ)	
194	後藤敬一郎	題不詳(《痕》と子どものための習作)④	n. d./2021 (令和3)年	g. s. p.、オリジナル・ネガ からのニュープリント	61.0×50.8 (紙サイズ)	
195	山本悞右	作品	1950(昭和25)年頃	g. s. p.	25.5×19.8	名古屋市美術館蔵
196	高田皆義	秋	n. d.	g. s. p.	17.6×13.8	個人蔵
197	高田皆義	作品A	1949(昭和24)年	g. s. p.、コラージュ	25.3×16.7	個人蔵
198	高田皆義	ヌード①	n. d.	g. s. p.	43.0×53.5	横浜美術館蔵
199	高田皆義	ヌード②	n. d.	g. s. p.	56.5×46.5	横浜美術館蔵
200	高田皆義	ヌード③	n. d.	g. s. p.	43.5×53.5	横浜美術館蔵
201	高田皆義	ヌード④	n. d.	g. s. p.	46.5×56.5	横浜美術館蔵
202	服部義文	寓話A	1950(昭和25)年	g. s. p.	28.5×21.7	個人蔵
203	服部義文	寓話B	1950(昭和25)年	g. s. p.	25.9×20.3	個人蔵
204	服部義文	寓話C	1950(昭和25)年	g. s. p.	29.1×24.7	個人蔵

205	田島二男	板による(一)歌手	1952(昭和27)年頃	g.s.p.、紙、パネル、着色フレーム	37.8×16.2	名古屋市美術館蔵
206	田島二男	人生	n.d.	g.s.p.、紙、パネル、着色フレーム	25.9×19.6	名古屋市美術館蔵
207	田島二男	絵画	n.d.	g.s.p.、水彩・紙	34.3×17.3	名古屋市美術館蔵
208	後藤敬一郎	メモランダム	1947(昭和22)年	g.s.p.	43.5×35.4	個人蔵
209	後藤敬一郎	白い記号B	1948(昭和23)年	g.s.p.	40.6×30.4	個人蔵
210	後藤敬一郎	痕	1950(昭和25)年	g.s.p.	43.6×56.2	名古屋市美術館蔵
211	後藤敬一郎	題不詳	n.d.	g.s.p.	33.4×41.8	個人蔵
212	後藤敬一郎	題不詳	n.d.	g.s.p.	35.4×28.0	個人蔵
213	後藤敬一郎	モニュマン	1948(昭和23)年	g.s.p.	35.4×28.0	個人蔵
214	後藤敬一郎	終局	1957(昭和32)年	g.s.p.	53.5×22.5	個人蔵
215	臼井薫	河原で逢った老婆	1951(昭和26)年	g.s.p.	33.6×27.0	東京都写真美術館蔵
216	臼井薫	母子草、名古屋市中区	1951(昭和26)年	g.s.p.	19.1×26.4	名古屋市美術館蔵
217	臼井薫	悲愴なる曲、名古屋市中区	1951(昭和26)年	g.s.p.	34.5×24.6	名古屋市美術館蔵
218	臼井薫	ささやき、名古屋市中区	1951(昭和26)年	g.s.p.	27.9×25.5	名古屋市美術館蔵
219	臼井薫	海桐花の樹の下、名古屋下ノ一色	1951(昭和26)年	g.s.p.	22.7×33.2	名古屋市美術館蔵
220	臼井薫	遅しく生きる、常滑市	1951(昭和26)年	g.s.p.	35.5×25.7	名古屋市美術館蔵
221	臼井薫	不審、名古屋市中区	1951(昭和26)年	g.s.p.	34.5×25.9	名古屋市美術館蔵
222	高田皆義発行	VIVI社機関誌『CARNET DE VIVI』No.1	1948(昭和23)年6月	印刷、小冊子(二つ折り)	18.8×25.3、4頁	個人蔵

## V. 東松照明登場

223	東松照明	皮肉な誕生	1950(昭和25)年	g.s.p.	30.5×26.8	豊橋市美術博物館蔵
224	東松照明	シューシャンボーイの視線	1951(昭和26)年	g.s.p.	27.6×34.0	豊橋市美術博物館蔵
225	東松照明	混血児・名古屋 1952年	1952(昭和27)/2005-2006(平成17-18)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	27.6×32.8	愛知県美術館蔵
226	東松照明	傷痕軍人	1951(昭和26)年	g.s.p.	24.7×32.8	豊橋市美術博物館蔵
227	東松照明	うたた寝(サーカス2)	1952(昭和27)年	g.s.p.	35.1×23.2	豊橋市美術博物館蔵
228	東松照明	少年	1952(昭和27)年	g.s.p.	33.7×24.0	豊橋市美術博物館蔵
229	東松照明	神奈川・横須賀 1959	1958(昭和33)年	g.s.p.	26.8×38.7	豊橋市美術博物館蔵
230	東松照明	神奈川・横須賀 1959	1958(昭和33)年	g.s.p.	38.8×26.9	豊橋市美術博物館蔵
231	東松照明	神奈川・横須賀 1959	1958(昭和33)年	g.s.p.	26.8×38.7	豊橋市美術博物館蔵
232	東松照明	神奈川・横須賀 1959	1958(昭和33)年	g.s.p.	26.8×38.7	豊橋市美術博物館蔵
233	東松照明	伊勢湾台風 1 名古屋	1959(昭和34)年	g.s.p.	40.5×27.8	豊橋市美術博物館蔵
234	東松照明	伊勢湾台風 2 名古屋	1959(昭和34)年	g.s.p.	33.9×33.6	豊橋市美術博物館蔵

235	東松照明	家1 熊本・天草下島	1959(昭和34)年	g.s.p.	32.2×38.5	豊橋市美術博物館蔵
236	東松照明	家3 熊本・天草下島	1959(昭和34)年	g.s.p.	30.3×37.7	豊橋市美術博物館蔵
237	東松照明	家4 熊本・天草下島	1959(昭和34)年	g.s.p.	30.4×34.0	豊橋市美術博物館蔵
238	東松照明	家5 熊本・天草下島	1959(昭和34)年	g.s.p.	28.2×40.5	豊橋市美術博物館蔵
239	東松照明	家7 熊本・天草下島	1959(昭和34)年	g.s.p.	32.0×38.0	豊橋市美術博物館蔵
240	東松照明	家8 熊本・天草下島	1959(昭和34)年	g.s.p.	33.0×29.8	豊橋市美術博物館蔵
241	東松照明	アスファルト1 東京	1960(昭和35)年	g.s.p.	33.6×33.9	豊橋市美術博物館蔵
242	東松照明	アスファルト2 東京	1960(昭和35)年	g.s.p.	33.6×30.1	豊橋市美術博物館蔵
243	東松照明	長崎/0.6km地点 爆風により崩壊した浦上天主堂の天使像	1961(昭和36)年	g.s.p.	35.4×34.2	豊橋市美術博物館蔵
244	東松照明	長崎/浦川清美さんと娘たち (1.6km地点で被爆 父母兄弟6人死亡)	1961(昭和36)年	g.s.p.	29.9×37.8	豊橋市美術博物館蔵
245	東松照明	長崎/熱線と火災によって溶解変形した瓶	1961(昭和36)年	g.s.p.	36.6×33.0	豊橋市美術博物館蔵
246	東松照明	長崎/爆心地から0.7kmの地点から掘り出された腕時計	1961(昭和36)年	g.s.p.	36.5×33.0	豊橋市美術博物館蔵
247	東松照明	長崎/福田須磨子さん(1.7km地点で被爆 父母と姉が爆死)	1961(昭和36)年	g.s.p.	42.8×29.2	豊橋市美術博物館蔵
248	東松照明	長崎/山口仙二さん(1.2km地点で被爆)	1961(昭和36)年	g.s.p.	43.4×30.5	豊橋市美術博物館蔵
249	東松照明	廃園 東京	1964(昭和39)年	g.s.p.	30.0×41.3	豊橋市美術博物館蔵
250	東松照明	神奈川・横須賀 1966	1966(昭和41)年	g.s.p.	26.8×38.9	豊橋市美術博物館蔵
251	東松照明	プロテスト1 東京・新宿 1969	1969(昭和44)年	g.s.p.	29.1×40.0	豊橋市美術博物館蔵
252	東松照明	プロテスト2 東京・新宿 1969	1969(昭和44)年	g.s.p.	28.8×40.4	豊橋市美術博物館蔵
253	東松照明	波照間島 1971	1971(昭和46)年	g.s.p.	30.4×42.0	豊橋市美術博物館蔵
254	東松照明	西表島 1972	1972(昭和47)年	g.s.p.	29.2×42.3	豊橋市美術博物館蔵
255	東松照明	宮古島 1972	1972(昭和47)年	g.s.p.	29.2×42.3	豊橋市美術博物館蔵
256	東松照明	神奈川・横須賀 1966	1966(昭和41)年	g.s.p.	32.0×21.5	東京都写真美術館蔵
257	東松照明	神奈川・横須賀 1966	1966(昭和41)年	g.s.p.	32.0×21.5	東京都写真美術館蔵
258	東松照明	那覇市 1969	1969(昭和44)年	g.s.p.	30.4×22.6	豊橋市美術博物館蔵
259	東松照明	山口・岩国 1960	1960(昭和35)年	g.s.p.	32.1×21.9	東京都写真美術館蔵
260	東松照明	プロテスト 東京・新宿 1969 ヤング・パワー(4)	1969(昭和44)年	g.s.p.	21.2×32.0	東京都写真美術館蔵
261	東松照明	プロテスト 東京・新宿 1969	1969(昭和44)年	g.s.p.	22.2×31.0	東京都写真美術館蔵
262	東松照明	波照間島 1971	1971(昭和46)年	g.s.p.	21.3×32.0	東京都写真美術館蔵
263	東松照明	野甫島 1972	1972(昭和47)年	g.s.p.	21.0×32.0	東京都写真美術館蔵
264	東松照明	西表島 1972	1972(昭和47)年	g.s.p.	21.3×32.0	東京都写真美術館蔵

## VI. <中部学生写真連盟>—集団と個人、写真を巡る青春の模索

265	全日本学生写真連盟 キャンペーン委員会	全日本学生写真連盟 キャンペーン写真集『状況1965』	1966(昭和41)年 2月	文庫版書籍、 グラビア印刷、189頁	14.7×10.4	個人蔵
266	明治大学カメラクラブ	写真集『足ぶみ飛行機』	1966(昭和41)年 7月	冊子、オフセット印刷、 114頁	16.9×18.0	個人蔵
267	全日本学生写真連盟 キャンペーン委員会	全日本学生写真連盟 キャンペーン写真集『状況1966』	1968(昭和43)年 8月	文庫版書籍、 グラビア印刷、221頁	14.9×10.6	個人蔵
268- 285	全日本学生写真連盟	『全日本学生写真連盟会報』 No.7-No.49のうち、18冊 (No.7, 11-13, 15, 17, 18, 22-30, 45, 49)	1954(昭和29)年 4月~1963(昭和 38)年9月	冊子、グラビア印刷、 12-20頁	21.1×15.0	個人蔵
286- 287	全日本学生写真連盟	『Young Eyes 全日本学生写真連盟会報』 No.52, No.53 2冊	1965(昭和40)年 4月、9月	冊子、グラビア印刷 20頁	25.8×18.2	個人蔵
288- 298	全日本学生写真連盟	『全日会報 Young Eyes』 No.55-65 (11点)	1966(昭和41)年~ 1971(昭和46)年	タブロイド紙、 グラビア印刷	38.8×27.5	個人蔵
299	中部学生写真連盟	『1965年 中部学生写真連盟報告書』	1965(昭和40)年 11月	冊子、ガリ版印刷	25.8×18.4、 36頁	個人蔵
300	中部学生写真連盟	『中部学生写真連盟'69 シンポジウム 合宿総 括書』	1969(昭和44)年 3月27日	冊子、ガリ版印刷	25.8×18.4、 15頁	個人蔵
301	中部学生写真連盟 名古屋撮影行動	『第一回名古屋撮影行動全体会議 -1969 年6月7日・8日』	1969(昭和44)年 6月21日発行	冊子、ガリ版印刷	26.3×18.3、 8頁	個人蔵
302- 317	中部学生写真連盟	中部学生写真連盟 集団撮影行動「名古屋」 16点	n.d.(1970-74年 頃)	g.s.p.	24.2×18.5	個人蔵
318- 327	中部学生写真連盟	中部学生写真連盟 集団撮影行動「名古屋」 コンタクト・プリント 10シート(360カット)	n.d.(1970-74年 頃)	g.s.p.	20.6×25.0	個人蔵
328- 329	中部学生写真連盟	『中部学生写真連盟機関誌』(大学の部) 第3号、第4号 2冊	1967(昭和42)年 7月 1968(昭和 43)年2月	冊子、グラビア印刷	第3号:26.5×19.1 第4号:25.8×18.3	個人蔵
330- 332	中部学生写真連盟	『中部学生写真連盟機関誌』(高校の部) No.1、No.4、No.5 3冊	1963(昭和38)年 5月創刊~1965 (昭和40)年5月	冊子、グラビア印刷	No.1:25.9×18.2 No.4,5:26.1×19.1	個人蔵
333	中部学生写真連盟	『れんめい 中部学生写真連盟高校の部機関 誌』(『中部学生写真連盟機関誌』No.6改名)	1965(昭和40)年 11月	冊子、グラビア印刷	25.9×18.2	個人蔵
334- 336	中部学生写真連盟	中部学生写真連盟(高校の部) 機関誌『フォト・オピニオン』No.1-3、3冊	1967(昭和42)年 2月、10月、1968 (昭和43)年1月	冊子、グラビア印刷	No.1(55頁) 25.8×18.4 No.2(16頁) 26.1×19.1 No.3(51頁) 25.9×18.9	個人蔵
337- 341	山本悍右	朝、突然に(5点1組)	1968(昭和43)年	g.s.p.、パネル貼り	①54.0×43.9 ②21.3×37.9 ③43.8×53.5 ④31.7×39.0 ⑤53.3×42.7	個人蔵
342- 353	杉山茂太	SUD ①-⑫ 12点組	1968(昭和43)年	g.s.p.、パネル貼り	31.8~41.2× 31.8~41.0	個人蔵
354- 368	高橋章	写真集『断層—現代高校生の記録—』より ①-⑮ 15点	1969(昭和44)年 /2020(令和3)年	g.s.p.、オリジナル・ネガ からのニュープリント	35.4×28.0	
369	高橋章	写真集『断層—現代高校生の記録—』	1974(昭和49)年 1月	冊子、オフセット印刷 32頁	20.9×15.1	個人蔵
370	名古屋電気工業高等学校 写真部	写真集『大須』	1969(昭和44)年 4月	冊子(自作写真集)、 印画紙24点貼付、24頁	27.4×19.5	個人蔵
371- 413	名古屋電気工業高等学校 写真部	共同制作『大須』のためのプリント作品 (六つ切)43点	1969(昭和44)年	g.s.p.	25.4×20.3	個人蔵
414- 418	名古屋電気工業高等学校 写真部	共同制作『大須』5点[1969年私学展出品作品] (①時計屋の店先②リヤカーを引く ③路地の母娘④崩れた壁⑤寄進札)	1969(昭和44)年	g.s.p.	①21.2×28.9 ②21.3×29.0 ③29.7×20.2 ④29.2×21.1 ⑤29.2×20.8	個人蔵
419	Sugiura Yoji	写真集『大須』	1969(昭和44)年	冊子(自作写真集)、 印画紙30点貼付、32頁	27.1×19.6	個人蔵
420- 448	Sugiura Yoji	写真集『大須』のためのプリント作品 (キャビネ判)29点	1969(昭和44)年	g.s.p.	9.5×12.1	個人蔵

449-450	石原輝雄	《高校生-1,2》2点	1969(昭和44)年/2020(令和3)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	35.4×28.0	
451	Sugiura Yoji	名古屋へ平連定例デモ&フォーク集会、 1969.8.17-24 ①-③ コンタクト・シート 1点	1969(昭和43)年8月/2020(令和3)年	オリジナル・ネガからの ニュー・プリント	28.0×35.4	
452-453	Sugiura Yoji	刈谷佐佐美基地撤去デモ、1969.9.21 ①-② コンタクト・シート 2点	1969(昭和44)年9月/2020(令和3)年	オリジナル・ネガからの ニュー・プリント	28.0×35.4	
454-456	Sugiura Yoji	広小路通り、名古屋駅前、1969.10.21 ①-③ コンタクト・シート 3点	1969(昭和44)年10月/2020(令和3)年	オリジナル・ネガからの ニュー・プリント	28.0×35.4	
457-459	Sugiura Yoji	広小路通り、名古屋駅前、1969.10.21(3点)	1969(昭和44)年/2020(令和3)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	35.4×28.0	
460-464	石原輝雄	広小路通り、名古屋、1969.10.21(5点)	1969(昭和44)年	g. s. p.	25.4×20.3	個人蔵
465-467	石原輝雄	広小路通り、名古屋駅前、1969.10.21 ①-③	1969(昭和44)年/2020(令和3)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	35.4×28.0	
468-473	山崎正文	無題 ①-⑥	1969(昭和44)年/2020(令和3)年	オリジナル・ネガからの インクジェット・プリント	35.4×28.0	
474-547	名古屋女子大学写真部	集団撮影行動「郡上」 プリント74点	1968(昭和43)年~ 1970(昭和45)年	g. s. p.	25.4×20.8	個人蔵
548	名古屋女子大学写真部	『郡上—撮影記—』	c.1968(昭和43)年頃	冊子、ガリ版印刷、	25.8×18.4、 14頁	個人蔵
549	名古屋女子大学写真部 OG	名古屋女子大学集団撮影行動写真集 『郡上』	2016(平成28)年 1月	冊子、オフセット印刷、 84頁	16.8×18.5	個人蔵
550	「10・21とはなにか」を 出版する会	写真集『10・21とはなにか』	1969(昭和44)年	冊子、 オフセット2色印刷、96頁	20.9×15.1	個人蔵
551	ふたたび「10・21とはなにか」 を出版する会	写真集『6911.13-17佐ト訪米阻止斗争』	1970(昭和45)年	冊子、 オフセット2色印刷、64頁	21.2×14.9	個人蔵
552	全日本学生写真連盟公害 キャンペーン実行委員会	写真集『この地上にわれわれの国はない』	1970(昭和45)年	冊子、オフセット印刷 88頁(110点掲載)	20.9×14.7	個人蔵
553-594	全日本学生写真連盟公害 キャンペーン実行委員会	『この地上にわれわれの国はない』 プリント作品 100点のうち42点	1970(昭和45)年	g. s. p.	10.8~19.0 ×16.3×29.7	個人蔵
595	広島デー実行委員会	『広島デー第一次撮影現地報告書』	1968(昭和43)年 9月10日発行	冊子、ガリ版印刷、	25.5×18.3、 20頁	個人蔵
596	広島デー実行委員会	『広島デー第一次・第二次撮影レポート』	1968(昭和43)年 10月29日発行	冊子、ガリ版印刷、 青焼き	26.0×18.4、 22頁	個人蔵
597	全日本学生写真連盟 広島デー実行委員会	写真集『ヒロシマ・広島・hirou-sima』	1972(昭和47)年	冊子、 オフセット2色印刷、64頁	23.6×17.0	個人蔵
598	三里塚写真の会	写真絵本『三里塚1』	1978(昭和53)年	冊子(折本)、オフセット 印刷、42面	13.1×9.2 全長197.5cm	個人蔵
599	三里塚写真の会	写真絵本『三里塚2』	1978(昭和53)年	冊子(折本)、オフセット 印刷、28面	13.1×9.2 全長120.0cm	個人蔵
600	全日本学生写真連盟	『Young Eyes われわれの写真 '77~'78』	1978(昭和53)年 9月	グラフ誌、グラビア印刷	34.2×26.1、 56頁	個人蔵

# アートとめぐるはるの旅

Spring Journey - Take Me to Art Adventure !

会期：2021年3月25日(木)～6月6日(日)

## 会場

常設展示室1・2・3

## 主催

名古屋市美術館、中日新聞社

## 後援

名古屋市立小中学校PTA協議会

## 協力

名古屋市交通局

## 観覧料

一般500円、高大生300円、中学生以下無料

## 内容

本展は、名古屋市美術館の所蔵作品および寄託作品から、「旅」をテーマに約50点の作品を選び、紹介する特別展として開催した。当初予定では、令和2年7月11日(土)から8月30日(日)を会期とし、「アートと旅するなつやすみーサマー・エスケープ」として開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、開催延期となった。

本展は、地下1階の常設展示室全室を使用し、通常の常設展示での分類(現代の美術/フランスの美術/メキシコの美術/郷土の美術)ではなく、「旅」する場所のテーマに沿ってコーナーを分け、展示した。子どもにもわかりやすい11のキーワード(たびのはじまり/やみをぬけて/そらのうえ/ものがたりのなかへ/うみのそこ/おわりとはじまり/かぜのなか/じかんときおく/うみをこえて/ここはどこ?/おかえりなさい)で構成し、現実にはたどり着けないような場所(宇宙の果てや海の底、過去の世界、死後の世界など)を表現した作品も含め、多種多様な旅先を想定した。アートを通じて、見たことのないものに対する想像力を働かせること、自分の知らない世界を受け入れ、体験することを主眼とした。展示室内には平易な文章による解説を設置し、子どもから大人まで、誰もが楽しめるよう配慮した。また、入場した小中学生には、鑑賞の手助けになるよう、ワークブック(B5判、カラー16頁)を無料配布した。

これまでの常設展示で展示機会が少なかった作品を積極的に出品したほか、壁組みを一部変更し、モディリアーニ《おさげ髪の少女》やフリーダ・カーロ《死の仮面を被った少女》などの常設作品の位置を変更したことで、「新鮮な気持ちで鑑賞できた」という感想が多く寄せられた。いつもと違った視点で所蔵作品を活用する良い機会となった。



ポスター



ワークブック

## 関連催事

### ①ワークショップ「隠れ家をつくろう」

日時：3月28日(日)午前10時～午後3時

会場：名古屋市美術館 通用口前駐車場

講師：林幸秀(造形作家)

対象：小学3～6年生の子どもと保護者(原則として3～4名1組の家族単位での参加)

参加者数：7組21名

内容：木材をしゅろ縄で縛って組み立て、麻布などで装飾して、小さな隠れ家を制作するもの。感染対策のため家族単位の参加とし、家族ごとに1基ずつ制作した。完成した作品は、会期中、地下1階のサンクンガーデンに展示した。



会場風景

### ②ワークショップ「テンセグリティ作りに挑戦」

日時：4月29日(木・祝)午前10時～午前11時30分/午後2時～午後3時30分

会場：名古屋市美術館講堂、常設展示室

講師：山田吉孝(名古屋市科学館学芸員)

対象：小中学生

定員：各回10名

内容：ストローと輪ゴムを使って、立体的なオブジェを制作するもの。引っ張り合う力によって均衡を保つ造形を体験する。

※愛知県にまん延防止等重点措置が実施(令和3年4月5日から5月11日まで)されたことや、愛知県内の感染状況を鑑み、4月29日(木・祝)の開催を5月16日(日)に延期した。その後、愛知県に緊急事態宣言が発出(令和3年5月12日から6月20日まで)されたことを受け、本ワークショップは中止とした。



会場風景



会場風景



## 出品作品

番号	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法
1	山田光春	星の誕生	1967	油彩・キャンヴァス	90.8×116.8
2	エヴァ・サロ	地図／再利用—展開	1989	ミクストメディア、コラーージュ・ジュート、板	118.0×105.0
3	アンゼラム・キーファー	シベリアの王女	1988	混合技法	280.0×500.0
4	山田光春	夜の生物	1936	油彩・キャンヴァス	65.2×53.3
5	染谷亜里可	Decolor - moon	2002	ベルベット	114.0×150.0
6	アニッシュ・カプーア	虚空No.3	1989	顔料・ファイバーグラス	121.9×121.9×91.4
7	フランク・ステラ	説教	1990	混合技法(アルミニウムなど)	345.5×365.8×139.7
8	今村哲	宇宙飛行士最後の夢	2001	蜜蝋、顔料、アクリル・キャンヴァス、粘土、紙	146.0×123.0 オブジェ 25.0×16.0×12.0 テキスト 37.1×27.8
9	マルク・シャガール	寓話 1 カラスとキツネ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェランダ・リヴ紙)	38.5×30.0(29.2×24.5)
10	マルク・シャガール	寓話 11 オンドリと真珠	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェランダ・リヴ紙)	38.5×30.0(29.2×24.5)
11	マルク・シャガール	寓話 20 ライオンとネズミ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェランダ・リヴ紙)	38.5×30.0(29.2×24.5)
12	マルク・シャガール	寓話 21 ウサギとカエル	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェランダ・リヴ紙)	38.5×30.0(29.2×24.5)
13	バリー・フラナガン	三日月と釣鐘の上を跳ぶ野ウサギ	1983	ブロンズ	121.9×94.0×61.0
14	浅野弥衛	海の城	1993(1974.3)	エッチング(凸版)・紙	23.9×17.9
15	浅野弥衛	海の城	1993(1974.3)	エッチング・紙	36.0×23.8
16	浅野弥衛	Le chateau de la mer(海の城)	1993(1974.3)	エッチング(凸版)・紙	36.0×24.0
17	浅野弥衛	La mer(海)	1993(1974.3)	エッチング(凸版)・紙	36.5×24.0
18	坂本夏子	Octopus Restaurant	2010	油彩・キャンヴァス	227.0×182.0
19	山田秋衛	竜宮城図屏風	1927頃	絹本着彩	139.0×293.0
20	田淵俊夫	大地悠久 洛陽黄河	1992	紙本着彩	93.0×103.0
21	平松礼二	路 — みち	1979	紙本着彩、金泥	162.0×112.0
22	山田光春	送列	1960	油彩・キャンヴァス	103.0×259.5
23	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・金属板	14.9×11.0
24	コンスタンティン・ブランクーシ	うぶごえ	1917(1984铸造)	ブロンズ	17.0×26.0×18.0
25	内藤 礼	ナーメンロス／リヒト	1995	色鉛筆・紙	42.0×30.5
26	内藤 礼	ナーメンロス／リヒト	1995	色鉛筆・紙	42.0×30.5
27	李 禹煥	風とともに	1990	油彩・キャンヴァス 4パネル	260.0×776.0
28	嶋谷自然	砂丘と海	1967	紙本着彩	176.5×212.9
29	久野和洋	地の風景・三本の樹	2007	油彩・キャンヴァス	162.0×194.0
30	クロード・ヴィアラ	無題	1979	アクリル・テント	455.0×560.0
31	河原 温	14 JUL. 「1986 Todayシリーズ(1966-2013)より」	1986	アクリル・キャンヴァス	45.5×61.5
32	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(3層)、ワイヤラス(金鋼)、合板	161.9×201.3
33	横井礼以	蜜柑を持つK坊	1922	油彩・キャンヴァス	51.3×51.6
34	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	1918頃	油彩・キャンヴァス	60.0×45.5
35	三岸節子	ブルゴーニュの麦畑	1980	油彩・キャンヴァス	112.1×145.5
36	北川民次	タスコの山B	1934	油彩・板	45.5×60.6
37	アマドール・ルーゴ	鉱山の跡	1960	油彩・板	100.9×121.8
38	木下義謙	ドナウ川とブダペスト	1981	油彩・キャンヴァス	121.0×171.0
39	加藤金一郎	トレド遠望	1971	油彩・キャンヴァス	162.2×130.5
40	市野長之介	公園の池(鶴舞公園胡蝶ヶ池)	1935	油彩・キャンヴァス	112.0×144.5
41	西村千太郎	虎の檻	1935	油彩・キャンヴァス	112.0×146
42	大沢鉦一郎	城のある風景	1920	油彩・キャンヴァス	60.9×45.7
43	喜多村麦子	暮れ行く堀川	1929	絹本着彩	115.0×149.2
44	中谷 泰	陶土	1960	油彩・キャンヴァス	80.3×100.0
45	北川民次	瀬戸登り窯	1940頃	油彩・キャンヴァス	80.5×100.3
46	音部幸司	志摩大王崎の虹	1956	油彩・キャンヴァス	44.5×51.5
47	矢橋六郎	春の入り陽	1970	油彩・キャンヴァス	72.7×100.0
48	トニー・クラッグ	住処のある静かな場所	1984	木	155.0×105.0×60.0
49	庄司達	Navigation Flight(空間の誘導・飛行)No.5-6	1991	布・木・ロープ	220.0×1000.0×150.0

No.5, 6, 8, 18は名古屋市美術館受託。そのほかはすべて名古屋市美術館蔵。

名古屋市美術館では、展示室で作品を見ていただくだけでなく、鑑賞の楽しさや面白さを体験できる美術館を目指して、また来館者の皆様からの多様な要望に応えられるように多彩な教育プログラムを実施しています。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止と外壁改修工事により休館したため、大幅な予定変更となりました。再開後は新型コロナウイルス感染症拡大状況を確認しながら内容を変更し実施しました。

特別展にあわせた外部講師による講演会は開催しませんでした。学芸員による解説会は、「写真の都」物語展にあわせて3回実施しました。「アートをめぐるはるの旅」展関連事業として、林幸秀氏を講師に迎え、ワーク・ショップ「隠れ家をつくろう」を実施しました。

学芸員がコレクションから一作品を取り上げ掘り下げる「コレクション解析学」は3回を予定していましたが、本年度は、富澤有為男を取り上げた「芥川賞作家の画業」のみの開催となりました。

子ども向け教育普及事業としては、本年度も学校休業日の体験活動の推進のための美術鑑賞プログラム「美術をたのしむプログラム」を実施予定でしたが、すべて中止となりました。こうした状況を踏まえ、「おうちで楽しむミュージアム」と題し、所蔵作品のぬり絵データ計4点を美術館公式サイトで公開しました。

芸術と科学の杜は開催が見送られました。

学校との連携による教育普及事業「出前アート体験」では、本年度は、当初5校で実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から4校が中止。残り1校とその後申し込んだ1校を加えた2校にて「アートカードで学ぼう」を実施しました。これまでは学芸員とボランティアによる授業を行ってきましたが、感染症対策のため学芸員1名が行う内容に変更して実施しました。

就業・職業・職場体験および職場訪問も新型コロナ感染症拡大の影響のため、すべて中止となりました。またトワイライトスクールも実施が見送られました。ボランティアによる学校団体等向けガイドトークは、3団体に対して行う予定でしたが、実施日前後の感染症の拡大状況を考慮し、すべて中止となりました。名古屋市美術館が開発した美術鑑賞補助教材「アートカード」の貸出は、今年度は、美術館と保管校から総計11件、22セットでした。

このように名古屋市美術館の積極的な教育普及事業の実施を支えているのが、ボランティアの活動です。通常

は名品コレクション展でのギャラリートークを基本として、「出前アート体験」の支援、常設展の学校団体向けガイドトークの実施など幅広く活動しています。本年度は第7期から第10期、合計62名が登録し、活動予定でしたが、休館が続き予定していた活動ができませんでした。第11期ボランティア養成講座は、感染症対策をしながら10月から実施し、令和3年度から27名が新たなメンバーとして参加していただくことになりました。

学生向け優待事業としては、美術館学生メンバーズに令和2年度末現在12校が加入しています。高校生サポーター事業も継続しています。

美術館の活動を支援することを目的とした美術愛好家の会である名古屋市美術館協会の活動も限定的になりました。メンバー特典のオリジナル・カレンダーは、小川信治氏に作成を委嘱しました。

図書室の利用者数は、再開後の1月から3月の3か月で316名でした（開室時間は午後1時から4時まで）。出版関係では、美術館ニュース「アートペーパー」（第114～116号）を発行しました。この他に『年報』（電子版のみ）「展覧会案内」を刊行しました。

本年度は作品データベース化を推進しました。来年度にはホームページにて当館の作品検索ができるようにし、あわせて子ども（小学生）が作品をさがせるように子ども向けのページも作成予定です。

# 1. 一般成人対象の事業

## (1)講演会・解説会

年月日	時刻	内容	講師等	場所	参加者
3年2月20日(土)	午後2時～	「写真の都」物語展 解説会	竹葉丈(名古屋市美術館学芸員)	講堂	52
3年3月6日(土)	午後2時～	「写真の都」物語展 解説会	竹葉丈(名古屋市美術館学芸員)	講堂	50
3年3月20日(土)	午後6時～	「写真の都」物語展 解説会	竹葉丈(名古屋市美術館学芸員)	講堂	86

## (2)コレクション解析学

当館のコレクションから1点を選び、その魅力を学芸員が紹介する美術講座。

年月日	時刻	内容	講師等	場所	参加者
3年2月21日(日)	午後2時～	芥川賞作家の画業	保崎裕徳(名古屋市美術館学芸係長)	講堂	9

### コレクション解析学第1回

日時：2021年2月21日(日)午後2時～午後3時30分

演題：「芥川賞作家の画業」

作品：富澤有為男《姉》1928年

講師：保崎裕徳(名古屋市美術館学芸係長)

内容：富澤有為男(1902-1970)は、1923年から1933年まで存在した名古屋の洋画研究グループ「サンサシオン」の一員であるが、今日一般的には小説『地中海』で第4回芥川賞を受賞した文学者として記憶されている。東海中学校在学中から文学の道を志望していたが、父親の猛反対にあい、代わりに母親の従兄にあたる洋画家・岡田三郎助をたよって上京して絵画の勉強を始めた。しかし文学へのあこがれを捨てきれ

ず、小説半分、絵画半分の生活を送りながら、1922年の第4回帝国美術院展覧会(帝展)に弱冠20歳で初入選を果たすと、第7回帝展(1926年)、第8回帝展(1927年)にも入選し、名古屋画壇の注目を集める存在になった。絵画修行と意気込んで1929年から1930年までフランスに遊学するも、当地の絵画の質の高さや、映画などの新しい文化・芸術の活況を目の当たりにしてかえって絵画への関心が薄れることになり、帰国後は小説などの執筆を本業とした。画家としての活動が戦前の十数年間に限られ、また空襲でほとんどの作品を焼失しているために、実態が掴めていなかった富澤の画業を、現時点までの調査で判明した情報をもとに解説した。

## (3)パフォーマンス・ワークショップ

年月日	時刻	内容	講師等	場所	参加者
2021年3月28日(日)	午前10時～	「アートとめぐるはるの旅」展関連事業 ワークショップ「隠れ家をつくろう」	林幸秀(造形作家)	講堂及び屋外	23



制作の様子1



制作の様子2



展示風景 1



展示風景 2

## 2. 子ども対象の事業

### (1) 学校休業日の体験活動の推進

名古屋市美術館では平成15年度から、長期休業期間を除く学校休業日(土日祝)を対象に、美術や美術館に親しむプログラムを継続して実施している。これは名古屋市教育委員会が平成22年度まで推進してきた「なごやっ子教育推進計画」の後継として策定した「名古屋市教育振興基本計画」の一環で行うものである。

令和2年度は前年度の内容改訂を引き継ぎつつ、来館者の利用状況や興味関心、運営を支援しているボランティアの意見などを取り入れながら、「美術をたのしむプログラム」として事前申込制と自由参加、あわせて年間4種類の活動を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大や休館期間の変更等に伴い、全て中止となった。

ただし、一部の自由参加プログラムは館公式サイトを活用し、休校期間中の子どもたちが自宅で行うようにした。

#### ① 事前申し込みが必要なプログラム

##### 1) イチおし！コレクション

- 日 時 ① 6月7日(日)午前10時～正午【中止】  
② 9月27日(日)午前10時～正午【中止】

##### 2) おでかけプログラム「アーティストに会いに行こう」

- 日 時 11月23日(月・祝)午前10時～正午【中止】

#### ② 自由参加プログラム

##### 1) ちびっこオアシス

- 日 時 ① 5月5日(火・祝)・6日(水・休)【中止】  
② 6月20日(土)・21日(日)【中止】  
③ 8月15日(土)・16日(日)【中止】

開館時間(午前9時30分～午後5時)中、随時

### 2) コレクションをぬり絵でたのしむ

日 時 開館中の土曜・日曜・祝日【中止】

※地階キッズコーナーでの開催に代わり、「おうちで楽しむミュージアム」と題し、著作権失効あるいは許諾を得た所蔵作品のぬり絵データ3点を美術館公式サイトで公開した。また令和3(2021)年1月の再開館にあたって1点を追加した。詳細は以下の通り。

アメデオ・モディリアーニ《おさげ髪の少女》

三岸好太郎《海と斜光》

渡辺幾春《蓄音機》

川合玉堂《秋嶺白雲》

### (2) 芸術と科学の杜

「芸術と科学の杜」とは、名古屋市美術館と科学館が連携して、市民の豊かな感性と創造力を育む魅力ある事業を継続して実施するとともに、白川公園周辺の文化施設や地域とも協力して連携の輪を広げることで「芸術と科学を中心にさまざまな文化が融合し、新しい文化を生み出すまち」の形成を目指すものである。

この事業の目的を実現するため、地元商店街や周辺の施設、関係機関で構成する「芸術と科学の杜連携推進会議」を設立し、例年サイエンス&アートフェスティバルの開催を始め、地元連携事業、地元交流事業を行っているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止した。

### 3. 学校対象事業

#### (1) ボランティアによる学校等団体向けガイドトーク

名古屋市美術館では、常設展を鑑賞する学校等の団体来館者に対して、希望によりボランティアによるガイドトークを実施している。これは来館者が10名程度のグループにわかれて、ボランティアと一緒に展示室をまわりながら、会話を通してじっくりと美術を鑑賞するものである。本年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行い、実施する方針で、3団体に対しガイドトークを予定していたが、いずれも実施日前後における感染状況を鑑み、中止となった。

#### (2) アートカード貸出実績

アートカードは、名古屋市美術館の所蔵作品の中から60点を選び、はがき大の複製図版に仕立てた鑑賞学習用補助教材である。名古屋市立の小中学校に対しては各区に設けた保管校を通して、それ以外の学校・団体には美術館から直接貸出を行い、鑑賞学習の普及に努めている。今年度は、新型コロナウイルス感染症への対応から保管校からの貸出を9月上旬まで休止とし、その間は美術館から直接貸出を行うこととした。

#### 令和2年度 アートカード保管校別貸出実績

区	貸出先	ケース数	貸出期間
千種	(なし)	0	
東	砂田橋小学校	3	11月4日～11月6日 12月7日～12月11日
	愛知教育大学附属名古屋小学校	3	2月1日～3月17日
北	(なし)	0	
西	なごや小学校	4	12月～1月
中村	諏訪小学校	1	10月
中	(なし)	0	
昭和	(なし)	0	
瑞穂	(なし)	0	
熱田	(なし)	0	
中川①	はとり中学校	2	9月
中川②	(なし)	0	
港	(なし)	0	
南	南光中学校	2	6月
守山	(なし)	0	
緑	東丘小学校	2	2月
名東	(なし)	0	
天白	大坪小学校	1	10月9日～12月24日

計8件、18セット貸出

#### 令和2年度 アートカード保管校一覧

区	学校名	担当の先生	ケース数	保管ケース番号
千種区	城山中	森田 進午	3	2、3、4
東区	砂田橋小	福井 千絵	3	1、5、6
北区	名北小	鈴木さやか	4	7、8、9、10
西区	なごや小	樋田 裕二	4	11、12、13、61
中村区	諏訪小	松本 明美	3	15、16、26
中区	松原小	坂 泉美	3	17、18、19
昭和区	駒方中	松岡 健児	3	20、21、22
瑞穂区	穂波小	大島 聖矢	3	23、24、25
熱田区	白鳥小	佐々木めぐみ	2	27、28
中川区	はとり中	校條 敬子	4	29、30
	山王中	福島 恭子		31、33
港区	東港中	佐藤由利子	3	34、35、36
南区	南光中	石谷和佳子	2	62、63
守山区	大森小	山田祥太郎	4	42、43、44、45
緑区	東丘小	原 敏史	5	46、47、48、49、50
名東区	高針台中	佐久間貴子	4	51、52、53、54
天白区	平針小	古川 恵	4	55、56、57、58

#### 令和2年度 美術館からの直接貸出実績

No.	学校・団体名	ケース数	期間
1	姫路市立美術館	1	9月3日～10月22日
2	名城大学附属高等学校	1	12月22日～1月5日
3	名城大学附属高等学校	2	1月5日～2月24日

計3件、4セット貸出

### (3)出前アート体験

今年度は年度初めの申し込み状況に応じて5校での授業を予定していたが、新型コロナウイルス感染症への予防的対応から4校での実施が取り止めとなった。このような状況のなか、追加申込みの相談があったため、安全に授業を行う実施の条件などを確認して1校を加え、当初予定の1校とともに2校で実施した。例年は「アートカードで学ぼう」の実施にあたってグループ活動の援助者としてボランティアを伴うことが多いが、安全に授業を行う実施の条件に照らし合わせて授業内容や実施の方法を見直し、学芸員1名のみで行う授業内容としている。

#### 1. 取り止め \*詳細は予定

##### ①瑞穂区 中根小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 9月30日(水)午前9時40分～午前11時25分  
対象学年 4年生2クラス(73名)\*学年を二分して1時間ずつ2時限の授業を予定  
講 師 (学芸員)清家三智

##### ②守山区 二城小学校

プログラム名 名作の秘密を探る  
日 時 10月6日(火)午前9時40分～午前10時25分  
対象学年 5年生(3クラス98名)\*全体まとめて授業を予定  
講 師 (学芸員)中村暁子

##### ③千種区 千代田橋小学校

プログラム名 名作の秘密を探る  
日 時 10月14日(水)午前9時35分～午前10時20分  
対象学年 4年生2クラス(69名)\*学年まとめて授業を予定  
講 師 (学芸課長)井口智子

##### ④西区 稲生小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 1月13日(水)午前10時45分～午後0時25分  
対象学年 6年生4クラス(123名)\*学年を二分して1時間ずつ2時限の授業を予定  
講 師 (学芸員)森本陽香

#### 2. 実施

##### ①北区 清水小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 1月27日(水)午前9時40分～午前11時30分

場 所 特別活動室

対象学年 3年生2クラス(47名)\*学年まとめて授業の予定を、新型コロナウイルス感染症への予防的対応から、直前にクラスごとに変更して1時間ずつ2時限の授業を実施

講 師 (学芸係長)保崎裕徳

授業内容 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、グループ活動による至近距離での会話、アートカードへの複数人の接触をできるだけ避けることを前提に、以下のプログラムを企画、実施した。

#### (1)導入 名古屋市美術館はどんなところ？

大型モニターに映る美術館の外観や内観の写真を見ながら、美術館の役割や作品について知る。

#### (2)活動① 絵と写真は何がちがう？

クラス全員で、ユトリロの絵画《ノルヴァン通り》(1910年)を大型モニターで鑑賞する。描かれている内容や気になる描写について、気づいたこと、感じたことを発言する。続いて2018年3月に撮影された実際のパリ、ノルヴァン通りの写真と見比べて、絵と写真の違い(絵画だからできること、写真だからできること、時間や天気の違い)について考え、気づいたことを発言する。

#### (3)活動② お話しづくりゲーム

1人につき1枚、風景画か人物画のカードが配られる。カードの内容を見ながら、それよりも前の時間に何が起こったかを想像した物語をワークシートに記入する。5分ほど経過したら、カードとワークシートを隣の児童と交換する。受け取ったカードと「以前の物語」の内容を参考に、その後の時間に起こった出来事を自由に想像して、ワークシートに記入する。

#### (4)まとめ 活動のふりかえり

活動で気づいたこと、参考になった他の児童の意見、今後の美術鑑賞で活かしたい観点をワークシートに記入する。

#### 3. 追加実施

##### ①千種区 星ヶ丘小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 1月26日(火)午前9時35分～午前11時25分  
場 所 教室  
対象学年 5年生2クラス(73名)\*クラスごとに1時

間ずつ2時限の授業を実施  
講師 (学芸員)清家三智  
授業内容 担任教諭との事前打合せでは、授業を通じて児童に学ばせたい事項として「作品の形や色に注目して作品のよさや面白さを感じ取ること」、「作品の内容や色や形から感じたことを伝え合うこと」、「友だちと話し合いながら作品の特徴を捉えること」などが挙げられた。しかし、特徴とは他と区別できる要素を指すことから、作品を単体で鑑賞するより何らかの共通点をもつ作品との比較対照が有効と考え、以下の内容で授業を行った。

なお、今回使用したアートカードの作品ペア10組は以下の通り。

- ①シャガール《二重肖像》、松下春雄《花を持つ女》
- ②野崎華年《衣冠人物像》、宮脇晴《夜の自画像》
- ③藤田嗣治《自画像》、北川民次《作文を書く少女》
- ④オロスコ《メキシコ風景》、佐分真《食後》
- ⑤海老原喜之助《群鳥》、ミルロイ《皿》
- ⑥元永定正《作品》、山本富章《無題》
- ⑦前田青邨《富貴花》、大野倣嵩《羯羅俱蟻》
- ⑧スーチン《セレの風景》、平岩三陽《山は粧ふ》
- ⑨喜多村麦子《暮れ行く堀川》、三岸節子《雷がくる》
- ⑩荻須高德《洗濯場（オーベルヴィリエ）》、  
フンデルトワッサー《郷愁の紫色の屋根II  
(837)》

【導入】美術館の簡単な紹介の後、特徴という言葉の意味をどう認識しているか児童に尋ね、彼らの言葉から「それだけあって、他のものにはないもの」などの言い換えを行った。次に、自分が見たものを、見ていない人に対して言葉だけで説明する時、特によく似たものが複数あった時、何をどのように伝えたら違いを分かってもらえるか、具体例をモニターで示しながら各自に考えてもらい、意見を出し合った。色や形、動きや奥行き、まわりの様子、描き方、質感など、見て分かることに加え、自分が作品から感じたことや印象を話してよいことを確認し、比較の際は優劣を競うのではな

く、それぞれのよさや面白さを探すよう促した。

【活動】1クラスを4人グループ（生活班）に分け、各グループにアートカードのペアを配付した。いずれも比較的すぐ分かる共通点1つと、相違点が備わった組合せにしてあるが、難易度は異なる。図版を比較し共通点を考えたら、次に共通点のある2作品のどこ（何）がどのように異なっているか、導入での意見交換を踏まえてグループ内で意見を出し合った。十分に考察ができた頃合いを見計らって、アートカードのペアをグループ間で入れ替え、同様の話し合いを3～4回くり返した。

授業のまとめとして児童に感想を尋ねたところ、「作品の特徴を正しくつかむには、隅々まで細かく丁寧に見ないといけないことが分かった」、「絵を見ていない相手に伝わりやすい説明を考えるのが難しかったけど、話し合っているうちに少しずつ出来るようになって面白かった」などの反応が返ってきた。

#### (4)就業・職業体験及び職場訪問受け入れ

対象 中学校・高等学校生徒  
内容 【体験】総務課、学芸課の業務内容を知るとともに、警備、案内監視、施設管理等の業務内容を知り、体験する。  
【訪問】館内施設の見学をするとともに、疑問点についてインタビューを行い、美術館に関する理解を深める。

※今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、いずれも中止となった。

## 2 ボランティア

今年度は62名の登録者にて活動を行った。

例年、主な活動として、常設展示室でのギャラリートークや、学校休業日の教育プログラムにおける美術鑑賞体験の支援など通常の出前授業の他に、トワイライトスクールでもアートカードを使った鑑賞学習体験を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、いずれも中止となった。なお、こういった活動を実施する機会が年間を通じてなかったことを考慮し、全登録者について登録期間を1年延長する措置を取った。

また、今年度は第11期のボランティアを募集し、64名の応募の中から選考や養成講座を経て、27名が新たに美術館ボランティアとして登録されることとなった。

多くのメンバーで安定した活動運営ができる一方で、一人当たりの活動の機会を確保することや、ガイドの質やレベルを平準化することが今後の課題となるが、美術館としては、ボランティアが安心して活動に積極的に取り組めるよう支援していくことが責務である。

### (2)定例会

定例会は原則として毎月第2土曜日の午前中に開催するが、令和2年度は館内工事の関係により、第2日曜日の午前中に開催した。4月～12月及び2月定例会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

日時	時間	内容	講師
1月10日	午前10時～正午	メキシコの女性画家たち	中村学芸員
3月14日	午前10時～正午	1920年代クロニクルーエコール・ド・パリの背景を文化史から読み解く	深谷副館長

### (3)ガイド活動

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

### (4)サポート活動 系の活動

#### 研修係

例年、館外での研修と定例会でのレクチャーを1つずつ企画実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症への対応によりボランティア活動が長期休止となったことから、館内外ともに活動を行うことができなかった。

#### 資料係

例年、常設展の展示替えごとにギャラリートークの参考となる資料を選別してボランティアに情報提供し、必要なものを配布している。また、特別展ギャラリートーク等で使用した資料やコレクション解析学等の展覧会の記録を収集し、後に参照しやすいよう整理して

### (1)ボランティア登録者(2021年3月31日現在)

第7期：池本せい子、井上静夫、今井康夫、遠藤明子、太田美奈、大塚和子、加藤久子、末原みとせ、葛森敦子、平尾真実、三浦有美、安江あおい、安原栄里、横井文代、吉川優実 ほか、計16名

第8期：内海典子、川合幸代、神田初美、橘田純子、柴田順三、杉原和夫、杉山要、鈴木昌弘、都築祥子、道家千津子、廣瀬千明 ほか、計17名

第9期：伊藤和子、魚住千加子、可児理佳、北村滋規、近藤理恵、下田薫子、鈴木浩司、恒川明美、西田果絵、廣瀬典子、前澤真奈美、目加田順子、吉村由紀江、米本有里、渡辺順子 ほか、計18名

第10期：池田裕子、伊藤早苗、川合葉子、久野るみ子、高鷲民生、中島鋭夫、新川款子、二宮由加里、野沢忠道 ほか、計11名

保存するなど、資料の管理全般に携わっている。今年度は新型コロナウイルス感染症への対応によりボランティア活動が長期休止となったことから、これらの活動を行うことができなかった。

#### 体験活動係

学校休業日の体験活動「美術をたのしむプログラム」の実施に際して、スタッフの募集や実施までの連絡調整、教材の準備や当日の運営のサポートなどを行う予定だったが、「美術をたのしむプログラム」がすべて中止になったことから、系の活動も停止した。

#### 団体対応係

例年、学校団体等による常設展の鑑賞方法の研鑽のため、ボランティアによる自主勉強会を年2回程度開催しているが、今年度は、新型コロナウイルス感染症への対応により、ボランティア活動が長期休止となったことか



ら、こうした活動を行うことができなかった。学校団体の受入もなかったため、実際に鑑賞活動をする機会もなかった。

## (5)第11期ボランティア養成講座内容

ボランティア活動を維持し、新たに多くの方々にボランティア活動を体験していただくため、第11期ボランティアの募集を行った。選考の結果、33名をボランティア養成講座受講者として、下記のようにボランティア養成講座を行った。新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に行った上で、ギャラリートークの体験では活動中のボランティアにも協力を得ている。ボランティア養成講座は3月に終了し、27名が正式に名古屋市美術館ボランティアに登録した。(活動開始は令和3年4月1日からである。)

なお、通例であれば隔年にあたる平成31(令和元)年度に実施する予定だったが、近年のボランティア活動の現状を踏まえ、中長期的な視点で登録期間や活動年限などの運営体制を見直す必要があったことから募集を1年順延し、本年度に行った。検討の結果、これまで2年ごとの登録更新、最長10年としていた活動年限を、第11期からは3年ごとに変更し、最長9年まで活動できることとした。

### 〈養成講座スケジュールと内容〉

#### 【第1回】10月4日(日)午後1時30分～4時30分

- 美術館代表者の挨拶(深谷副館長)
  - 今後の講座内容、基本資料の説明(清家学芸員)
  - 名古屋市美術館の概要、美術館の4つの機能、コレクションと常設展について(保崎学芸係長)
  - ディスクリプション(観察と言語描写)について(保崎学芸係長)
  - 館内見学①(黄主事、清家学芸員)
- 課題 ディスクリプション実践

#### 【第2回】10月18日(日)午後1時30分～4時30分

- 所蔵作品について①:〈郷土の洋画〉(井口学芸課長)
  - ギャラリートークの作り方(清家学芸員)
- 課題 トークプラン作成〈郷土の洋画〉2点

#### 【第3回】11月15日(日)午後1時30分～4時30分

- 所蔵作品について②:〈メキシコ・ルネサンス〉(竹葉学芸員)
- 常設展ギャラリートーク体験(森本学芸員、当館ボランティア)
- ディスクリプション課題の振り返り、フォロー(保崎学芸係長)

- 課題 トークプラン作成〈メキシコ・ルネサンス〉2点

#### 【第4回】11月29日(日)午後1時30分～4時30分

- 所蔵作品について③:〈郷土の日本画〉(角田学芸員)
  - 模擬ギャラリートーク①(学芸担当職員)
- 課題 トークプラン作成〈郷土の日本画〉1点

#### 【第5回】12月13日(日)午後2時～5時

- 所蔵作品について④:〈現代の美術〉(中村学芸員)
  - 模擬ギャラリートーク②(学芸担当職員)
  - 予習復習について(清家学芸員)
- 課題 トークプラン作成〈現代の美術〉2点

#### 【第6回】2021年1月10日(日)午後2時30分～4時30分

- 所蔵作品について⑤:〈エコール・ド・パリ〉(深谷副館長)
  - 4月からのボランティア活動の意志確認について(黄主事)
  - 活動意志確認書の提出、口座振替用紙について(黄主事)
  - 口座振替用紙の配布、説明(黄主事)
- 課題 トークプラン作成〈エコール・ド・パリ〉1点

#### 【第7回】2021年1月24日(日)午後1時30分～4時30分

- ギャラリートーク実践(学芸担当職員)
- 常設展示室での諸注意(清家学芸員)
- 世話人の選出(清家学芸員)
- 口座振替用紙の回収

#### 【第8回】2021年2月14日(日)午後2時30分～4時30分

- コレクション理解度チェックテスト
- 対話型鑑賞デモンストレーション(清家学芸員)
- 係活動希望調査について(清家学芸員)

#### 【第9回】2021年3月14日(日)午後1時30分～4時30分

- 活動に際して
    - ・名簿の押印等の事務手続きなど(黄主事)
    - ・活動マニュアル類の説明(清家学芸員)
  - 館内見学②(黄主事・清家学芸員)
  - 修了式
    - ・挨拶および研修修了証、登録証授与(深谷副館長)
- \*4月以降の活動に備えて、同日午前10時からのボランティア定例会への出席を求めた。

### 3 学生向け優待事業

#### (1)美術館学生メンバーズ

##### ①趣旨

美術館と大学等との教育連携により、学生と美術との出会いを容易にし、学生生活をより豊かにする機会を提供する。

##### ②対象

大学（短大、大学院）、専修学校、各種学校等の学校の生徒。オプションとして教職員の付加も可能。

##### ③事業概要

「ゆめ・プレミアムアートコレクション寄附金」に一定額以上の寄附を行った学校法人や団体に対して、その特典として、在籍する学生等がその年度の特別展や常設展を学生証等の呈示だけで無料で観覧できるようにするもの。

##### ④会員校(令和3年3月31日現在)

- ・名古屋大学
- ・名古屋芸術大学
- ・名古屋学院大学
- ・名古屋市立大学
- ・愛知県立芸術大学
- ・愛知淑徳大学
- ・学校法人中西学園
- ・南山大学
- ・豊田工業大学
- ・金城学院大学
- ・中部大学
- ・愛知教育大学

#### (2)高校生サポーター事業

##### ①趣旨

事業の実施により、高校生の美術に対する理解を深め、学校生活をより豊かにする機会を提供する。

##### ②対象

高等学校、中等教育学校（後期課程に限る。）又は高等専門学校の生徒。

##### ③事業概要

2,000円の会費の納付により、納付から1年間の会員期間の間、サポーター証及び学生証の呈示により特典を受けられる。特別展は会員及び同行する高校生が4回を上限に無料で観覧でき、常設展は会員が何度でも無料で観覧できる。

## 4 協力会

名古屋市美術館協力は、美術館の活動等に協力するとともに、市民の美術に関する知識と教養の向上を図るために必要な事業を行い、芸術文化の振興発展に寄与することを目的に活動を行っています。

<会員数>	<新規・継続別> (令和3年3月31日現在)			
		新規	継続	計
特別会員 5名	特別会員 1名	4名	5名	
一般会員 99名	一般会員 1名	78名	79名	
ユース会員 7名	ユース会員 0名	7名	7名	
家族会員 45名	家族会員 0名	45名	45名	
(計) 156名	(計) 2名	134名	136名	

### 令和2年度美術館協力会事業報告

- (1) 展覧会ギャラリー・トークの開催  
『「写真の都」物語－1911-1972』解説会  
令和3年2月7日(日) 20名参加
- (2) 美術館見学ツアーの実施  
春 無し  
秋
- (3) 作家を囲む会 無し
- (4) 美術館鑑賞ミニツアー 無し
- (5) ブログの運用  
令和2年度ブログ閲覧状況  
〔投稿36件、閲覧数4,824回、ユーザー数(延)2,480名〕
- (6) オリジナル・カレンダーの作成及び配付  
「小川信治」 アクリル・絵葉書 270部
- (7) 催しものの案内  
特別展、常設展、講演会など情報提供、年間展覧会案内、アートペーパーの配付
- (8) 作品の寄贈  
オリジナル・カレンダー1件3点
- (9) 総会の開催  
令和3年6月27日(土)  
出席者 16名(委任状 94名)計110名

## 5 図書室

図書室の資料の充実を図るとともに、そのときどきの特別展に即した参考資料を揃えるなどして、利用者の多様なニーズに応えるよう努力しています。

### 図書資料分類別冊数一覧 (令和3年3月31日現在)

分類	和書	洋書
辞書、辞典、年鑑、図書目録	585(7)	225(0)
画集、美術全集、所蔵品目録	7,843(86)	3,610(13)
展覧会図録	14,073(441)	1,535(6)
研究書、技法書	393(1)	17(2)
年報、紀要、報告書	8,765(272)	23(0)
美術雑誌	13,253(96)	2,586(13)
その他(美術教科書、一般図書)	2,688(99)	1,095(0)
小計	47,600(1,002)	9,091(34)
総計	56,691(1,036)冊	

( )は今年度の受け入れ図書冊数

### 入室者数 316名

4月	休館	10月	休館
5月	休館	11月	休館
6月	休館	12月	休館
7月	休館	1月	68名
8月	休館	2月	140名
9月	休館	3月	108名

## 出版・制作物一覧

### 美術館ニュース『アートペーパー』Nos. 114、115、116

美術館の活動状況や美術・文化についての様々な情報を広報するものです。

A 2判(2つ折り)、各5000部、館内無料配布およびPDFデータを当館ウェブサイトに掲載

#### 特集記事

114号：若き日のマリー・ローランサン

115号：芥川賞作家、富澤有為男の画業

116号：庄司達「空間の誘導」-Navigation



### 令和元年度名古屋市美術館年報

令和元(平成31)年度の当館の活動の記録です。

A 4判、65頁、PDFデータを当館ウェブサイトに掲載



### 令和3年度年間案内

令和3年度の展覧会情報と教育普及プログラムについて広報するものです。

A 3判(2つ折り、3山経本折り)、20,000部、館内無料配布



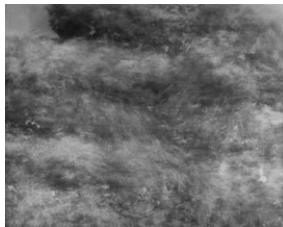
令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、美術館活動のあらゆる点で縮小を余儀なくされましたが、それは収集も同様でした。1月下旬に予定していた収集審査会議は新型コロナウイルス感染拡大のために中止となりました。この間、様々な会議が中止、延期、インターネットを利用したりリモート会議、あるいは書面のみによる審査などの形式の変更を迫られましたが、美術品の審査は現物を見る必要性が高いため、対面以外での実施は困難との判断から中止となりました。収集候補作品の大半は、次年度での審査に先送りとなりましたが、ご寄贈者の事情により、どうしても令和2年度中に結論を出す必要があるものが2件、47点あり、この作品のみを書面審査という形でご審議、ご了承いただくことになりました。

1件は秋岡美帆作品3点です。秋岡美帆は2018年に不慮の事故により急逝しましたが、ご遺族より残された作品を近隣の美術館に寄贈したい旨申し出がありました。調査の上、3点を選びご寄贈いただくことになりました。

もう1件は、下村直樹氏より申し出のあった3人の作家による44点です。笈忠治、松下春雄、深沢幸雄の3人はいずれも地元とゆかりがあり、また作家として多くの実績を残している作家です。笈、深沢の二人については今回初めての収集となり、それぞれの作家の特徴をよく伝える作品を選択しました。松下についてはすでに3点を収蔵していましたが、この度の作品は作風が異なるもので、作家の全体像を把握する上で貴重な作品として収集を行いました。

# (1)受贈

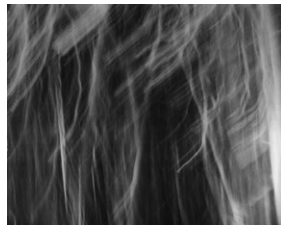
## ①資料



1. 秋岡美帆  
(1952-2018)  
AKIOKA Miho  
《1988 2 8 そよぎ》  
1988 2 8 Flutter  
1988  
インク・紙/NECOプリント  
217.0×274.5cm



2. 秋岡美帆  
(1952-2018)  
AKIOKA Miho  
《1988 2 8 ながれ》  
1988 2 8 Flow  
1988  
インク・紙/NECOプリント  
216.5×274.5cm



3. 秋岡美帆  
(1952-2018)  
AKIOKA Miho  
《光の間 02-5-13-3》  
Inter Lucem 02-5-13-3  
2002  
インク・紙/NECOプリント  
217.5×276.0cm



4. 松下春雄  
(1903-1933)  
MATSUSHITA Haruo  
《静かなる入江 小豆島》  
Quiet Inlet, Shodoshima Island  
1927  
油彩・キャンヴァス  
45.7×53.2cm  
下村直樹氏寄贈



5. 笈忠治  
(1908-2004)  
KAKEHI Chuji  
《自画像》  
Self-portrait  
1935  
油彩・キャンヴァス  
91.0×73.0cm  
下村直樹氏寄贈



6. 笈忠治  
(1908-2004)  
KAKEHI Chuji  
《花(鬼アザミ)》  
Flowers; Blessed thistle  
1973  
油彩・キャンヴァス  
73.0×61.0cm  
下村直樹氏寄贈



7. 笈忠治  
(1908-2004)  
KAKEHI Chuji  
《自画像》  
Self-portrait  
1991  
油彩・キャンヴァス  
41.0×32.0cm  
下村直樹氏寄贈



8. 笈忠治  
(1908-2004)  
KAKEHI Chuji  
《母の像》  
Portrait of Mother  
1928  
コンテ・紙  
77.0×58.5cm  
下村直樹氏寄贈



9. 笈忠治  
(1908-2004)  
KAKEHI Chuji  
《裸体》  
Naked Body  
1930  
コンテ・紙  
62.0×47.7cm  
下村直樹氏寄贈



10. 笈忠治  
(1908-2004)  
KAKEHI Chuji  
《自画像》  
Self-portrait  
1930  
墨・紙  
38.4×28.0cm  
下村直樹氏寄贈



11. 笈忠治  
(1908-2004)  
KAKEHI Chuji  
《自画像》  
Self-portrait  
1930  
インク・紙  
42.0×34.9cm  
下村直樹氏寄贈



12. 笈忠治  
(1908-2004)  
KAKEHI Chuji  
《自画像》  
Self-portrait  
1933  
コンテ、木炭・紙  
35.0×29.2cm  
下村直樹氏寄贈



13. 笥忠治  
(1908-2004)  
KAKEHI Chuji  
《自画像》  
Self-portrait  
1935  
コンテ、木炭・紙  
61.5×47.3cm  
下村直樹氏寄贈



14. 笥忠治  
(1908-2004)  
KAKEHI Chuji  
《自画像》  
Self-portrait  
1940  
コンテ、木炭・紙  
61.8×47.0cm  
下村直樹氏寄贈



15. 笥忠治  
(1908-2004)  
KAKEHI Chuji  
《自画像》  
Self-portrait  
1949  
コンテ、木炭・紙  
75.0×56.0cm  
下村直樹氏寄贈



16. 笥忠治  
(1908-2004)  
KAKEHI Chuji  
《半僧坊附近》  
Near Hanzobo  
1967  
コンテ、木炭・紙  
37.3×53.5cm  
下村直樹氏寄贈



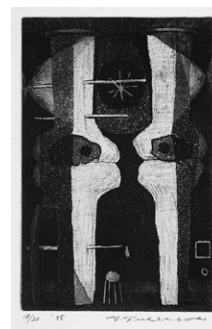
17. 笥忠治  
(1908-2004)  
KAKEHI Chuji  
《汁谷風景》  
Scenery of Sirutani  
1968  
コンテ、木炭・紙  
37.5×45.5cm  
下村直樹氏寄贈



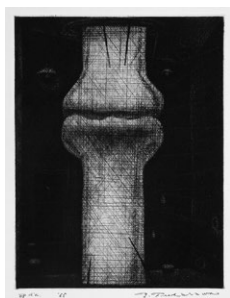
18. 笥忠治  
(1908-2004)  
KAKEHI Chuji  
《本山付近》  
Near Motoyama  
1972  
ボールペン・紙  
37.7×53.5cm  
下村直樹氏寄贈



19. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《餓鬼》  
Hungry Ghost  
1955  
インク・紙 / 銅版画  
紙:39.0×29.2cm イメージ:23.6×16.6cm  
下村直樹氏寄贈



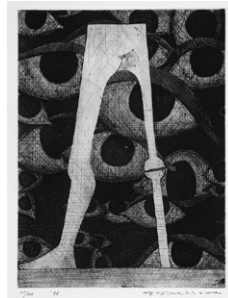
20. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《骨疾 A》  
Bone Disease A  
1955  
インク・紙 / 銅版画  
紙:33.0×24.8cm イメージ:18.5×12.2cm  
下村直樹氏寄贈



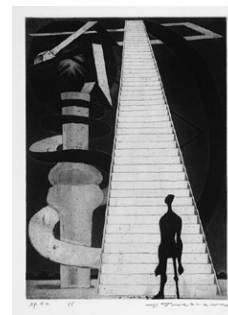
21. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《骨疾 B》  
Bone Disease B  
1955  
インク・紙 / 銅版画  
紙:40.0×29.3cm イメージ:24.1×18.5cm  
下村直樹氏寄贈



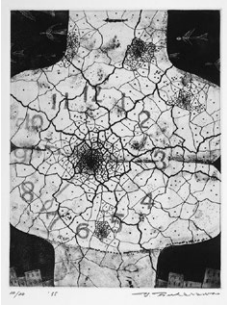
22. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《骨疾 C》  
Bone Disease C  
1955  
インク・紙 / 銅版画  
紙:40.0×29.2cm イメージ:24.2×18.5cm  
下村直樹氏寄贈



23. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《骨疾 D》  
Bone Disease D  
1955  
インク・紙 / 銅版画  
紙:35.4×29.3cm イメージ:24.2×18.1cm  
下村直樹氏寄贈



24. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《骨疾 E》  
Bone Disease E  
1955  
インク・紙 / 銅版画(真鍮板)  
紙:39.0×29.3cm イメージ:25.5×18.3cm  
下村直樹氏寄贈



25. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《骨疾 F》  
Bone Disease F  
1955  
インク・紙／銅版画(真鍮板)  
紙:40.0×29.2cm イメージ:24.1×18.4cm  
下村直樹氏寄贈



26. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《列》  
Line  
1956  
インク・紙／銅版画  
紙:37.0×50.7cm イメージ:24.2×36.7cm  
下村直樹氏寄贈



27. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《ダンテ『神曲』〈地獄篇〉より  
チェンタウロ》  
Centauro, from "Inferno, La Divina Comedia" by Dante  
1956  
インク・紙／銅版画  
紙:50.6×37.0cm イメージ:36.7×23.4cm  
下村直樹氏寄贈



28. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《ダンテ『神曲』〈地獄篇〉より  
ブルネット・ラティニー》  
Brunette Rathine, from "Inferno, La Divina Comedia" by Dante  
1956  
インク・紙／銅版画  
紙:50.7×41.0cm イメージ:36.7×29.4cm  
下村直樹氏寄贈



29. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《ダンテ『神曲』〈地獄篇〉より  
ジャンニ・スキッツ》  
Gianni Schicchi, from "Inferno, La Divina Comedia" by Dante  
1957  
インク・紙／銅版画  
紙:50.7×41.1cm イメージ:36.5×30.5cm  
下村直樹氏寄贈



30. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《ダンテ『神曲』〈地獄篇〉より  
ベルトラム・ダル・ボルニオ》  
Bertram dal Bornio, from "Inferno, La Divina Comedia" by Dante  
1957  
インク・紙／銅版画  
紙:50.6×41.1cm イメージ:36.6×30.3cm  
下村直樹氏寄贈



31. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《ダンテ『神曲』〈地獄篇〉より  
チェルベロ》  
Cerbero, from "Inferno, La Divina Comedia" by Dante  
1957  
インク・紙／銅版画  
紙:52.9×49.7cm イメージ:36.7×36.3cm  
下村直樹氏寄贈



32. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《ダンテ『神曲』〈地獄篇〉より  
ウゴリーノ》  
Ugolino, from "Inferno, La Divina Comedia" by Dante  
1957  
インク・紙／銅版画  
紙:52.8×49.8cm イメージ:36.6×36.4cm  
下村直樹氏寄贈



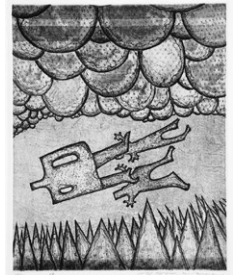
33. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《ダンテ『神曲』〈地獄篇〉より  
ルチフェ》  
Lucifero, from "Inferno, La Divina Comedia" by Dante  
1957  
インク・紙／銅版画  
紙:52.7×53.6cm イメージ:36.6×36.6cm  
下村直樹氏寄贈



34. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《ダンテ『神曲』〈地獄篇〉より  
マエストロ・アダモ》  
Maestro Adamo, from "Inferno, La Divina Comedia" by Dante  
1957  
インク・紙／銅版画  
紙:50.7×41.3cm イメージ:36.6×30.5cm  
下村直樹氏寄贈



35. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《ダンテ『神曲』〈地獄篇〉より  
カポッキオ》  
Capocchio, from "Inferno, La Divina Comedia" by Dante  
1957  
インク・紙／銅版画  
紙:50.7×41.0cm イメージ:36.5×29.5cm  
下村直樹氏寄贈

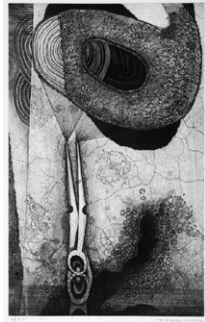


36. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《飛翔体》  
Flying Body  
1958  
インク・紙／銅版画  
紙:50.8×41.1cm イメージ:36.4×29.2cm  
下村直樹氏寄贈





37. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《人》  
Person  
1958  
インク・紙 / 銅版画  
紙: 51.9×43.3cm イメージ: 36.7×30.3cm  
下村直樹氏寄贈



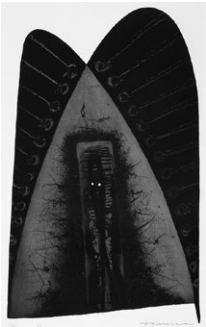
38. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《屈辱史 B》  
History of Humiliation B  
1961  
インク・紙 / 銅版画  
紙: 74.4×50.6cm イメージ: 58.0×36.5cm  
下村直樹氏寄贈



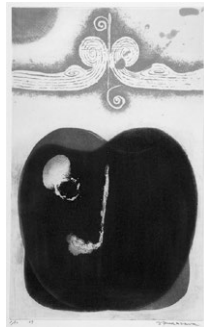
39. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《新しい夜》  
New Night  
1961  
インク・紙 / 銅版画  
紙: 50.9×44.6cm イメージ: 36.5×34.0cm  
下村直樹氏寄贈



40. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《久遠の歌》  
Eternal Song  
1961  
インク・紙 / 銅版画  
紙: 39.0×29.2cm イメージ: 36.5×34.0cm  
下村直樹氏寄贈



41. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《女帝》  
Queen  
1967  
インク・紙 / 銅版画  
紙: 74.7×50.4cm イメージ: 60.0×36.7cm  
下村直樹氏寄贈



42. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《子供の憂鬱》  
Children's Melancholy  
1969  
インク・紙 / 銅版画  
紙: 73.3×49.0cm イメージ: 60.6×36.6cm  
下村直樹氏寄贈



43. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《アセンダの地下にて》  
In the Basement of Hacienda  
1980  
インク・紙 / 銅版画  
紙: 87.8×60.8cm イメージ: 75.0×48.5cm  
下村直樹氏寄贈



44. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《小鳥紳士》  
Little Bird Gentleman  
1988  
インク・紙 / 銅版画  
紙: 51.3×41.3cm イメージ: 36.1×29.7cm  
下村直樹氏寄贈



45. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《白い抒情の人》  
White Lyrical Person  
1992  
インク・紙 / 銅版画  
紙: 87.5×60.5cm イメージ: 74.5×49.5cm  
下村直樹氏寄贈

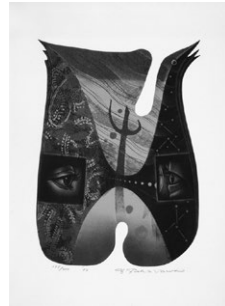
## ②特別資料



1. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
『深沢幸雄 銅版画全作品集  
1955-1980』  
YUKIO FUKAZAWA His Fine Prints 1955~1980  
1981  
インク・紙など／書籍  
下村直樹氏寄贈



- 添付オリジナル版画  
Attached Original Print  
1.-2 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《背中に見えるもの》  
Image on the Back  
1980  
インク・紙／銅版画



- 添付オリジナル版画  
Attached Original Print  
1.-3 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《十字の標識》  
Cross Sign  
1980  
インク・紙／銅版画



- 添付オリジナル版画  
Attached Original Print  
1.-4 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《台の上のりんご》  
Apple on the Table  
1980  
インク・紙／銅版画



- 添付オリジナル版画  
Attached Original Print  
1.-5 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
《小さな地震》  
Small Earthquake  
1980  
インク・紙／銅版画



2. 深沢幸雄  
(1924-2017)  
FUKAZAWA Yukio  
『深沢幸雄 銅版画全作品集 II』  
YUKIO FUKAZAWA His Fine Prints 1981~1991  
1991  
インク・紙など／書籍  
下村直樹氏寄贈

## (2)資料収集状況一覧

### 年度別

年度	分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総計
58年度		0	26	2	0		1		29
59年度		3	32	50	1		0		86
60年度		4	25	67	20		2		118
61年度		5	23	33	6		1		68
62年度		12	38	0	360		15		425
63年度		0	15	8	13		6		42
元年度		3	7	2	275		1		288
2年度		7	4	2	17		1		31
3年度		1	3	2	122		0		128
4年度		2	10	15	126		3		156
5年度		0	13	4	0		3		20
6年度		0	7	0	1		2		10
7年度		1	27	2	195		0		225
8年度		0	7	0	2		3		12
9年度		0	2	0	17		2		21
10年度		2	8	0	21		0		31
11年度		2	10	0	0		1		13
12年度		0	9	0	0		0		9
13年度		0	8	0	※ △83	※ 83	1	0	9
14年度		1	0	0	167	0	0	0	168
15年度		0	1	0	0	8	2	0	11
16年度		0	0	8	0	0	2	0	10
17年度		0	2	10	0	4	0	0	16
18年度		0	9	0	0	0	0	0	9
19年度		0	2	0	0	0	1	0	3
20年度		0	1	0	0	0	1	0	2
21年度		0	1	7	3	0	0	0	11
22年度		0	1	0	0	0	0	0	1
23年度		0	1	0	0	0	0	0	1
24年度		0	0	0	0	0	2	0	2
25年度		0	0	0	0	2	0	0	2
26年度		0	0	0	0	0	0	0	0
27年度		2	1	0	0	3	0	0	6
28年度		0	1	0	0	3	0	0	4
29年度		0	0	0	0	0	△1	0	△1
30年度		0	1	0	0	0	0	0	1
元年度		0	0	0	0	0	0	0	0
2年度		0	0	0	0	0	0	0	0
購入総計		45	295	212	1,263	103	49	0	(0) 1,967
保管転換		16	41	31	35	3	3	1	(0) 130
寄贈		87	(4) 353	(11) 961	(30) 581	507	31	(2) 2,183	(47) 4,703
受入変更		0	0	0	0	2	0	0	(0) 2
総計		(0) 148	(4) 689	(11) 1,204	(30) 1,879	(0) 615	(0) 83	(2) 2,184	(47) 6,802

### 収集方針別

分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総計
エコール・ド・パリ		32	3	478	0	2	3	(0) 518
メキシコ・ルネサンス		36	41	391	60	4	0	(0) 532
現代の美術	5	139	99	(30) 312	73	63	(2) 294	(32) 985
郷土の美術	143	(4) 482	(11) 1,061	698	482	14	1,887	(15) 4,767
総計	(0) 148	(4) 689	(11) 1,204	(30) 1,879	(0) 615	(0) 83	(2) 2,184	(47) 6,802

( )内の数字は令和2年度収集分 ※分類変更による増減

## &lt;修復&gt;

## 市野長之介 《公園の池（鶴舞公園胡蝶ヶ池）》

1935年 油彩・キャンヴァス 112.0×144.5cm

## 【損傷状態】

キャンヴァスの張りが緩く、上側辺右の方に破れが生じていた。画面右下角に波状変形があり、キャンヴァスに穴が開いていた。左下角にキャンヴァスの破れが生じていた。木枠の継ぎ目にズレと割れがあり、上下辺の木枠の継ぎ目部分の絵具層に圧迫痕が付いていた。裏面には液体の垂れ痕があった。画面には浮き上がりを伴うものを含め多数の剥落があり、亀裂も認められた。また、一部に絵具層の層間剥離が生じていた。空の描写部分に絵具の黄変、画面全体に埃汚れが認められた。

## 【修復処置】

絵具層の剥落箇所と浮き上がり箇所を接着し、側辺と画面の洗浄、液体の垂れ痕や空の黄変箇所の洗浄、裏面のドライクリーニングを行った。木枠と作品を分離し、変形部分をプレスして修正、キャンヴァスの4辺を補強するため亜麻布を貼付。新木枠に張り込みをし、剥落箇所の充填、補彩を行った。

## 【額装】

額縁（金箔アンティーク仕上げ）を制作し、額装を行った。また、無酸ボード裏板の取り付けを行った。

## 下郷羊雄 《伊豆の海》

1937年 油彩・キャンヴァス 72.7×53.3cm

## 【損傷状態】

画面のpH測定により、酸性であることが判明。厚塗り部分に亀裂、浮き上がり、剥落が見られ、部分的に乾燥性亀裂も見られた。キャンヴァスには張り皺、凹み変形、緩みが認められた。また、旧額縁の入れ子との接触による擦れ傷もあった。染み、虫糞も認められ、裏面のラベルの劣化も見られた。

## 【修復処置】

絵具層の剥落部分と亀裂部分を接着し、カビ痕にエタノール水を塗布。虫糞を除去し、画面を洗浄した。カビ痕をアンモニア水にて軽減。ラベルの破れを補強。裏面をドライクリーニングし、作品側辺に亜麻布の補強布を接着した。ポリエステル布を木枠に張り込み、その上に作品の張り込みを行った。剥落部分を充填・整形・補彩した。

## レッド・グルームス 《「野茂と今池トロリーバスの出会い」のマケット（第1次提案）》

1995年 ミクストメディア 50.0×51.8×52.2cm

## 【損傷状態】

作品上部の「野茂像」の足が破損し、作品から分離。過去にも損傷した跡があり、他に腕部にも破損、修復した跡が見られた。

## 【修復処置】

「野茂像」の足元の芯棒に対して上部の重量・バランスが悪く、オリジナルの芯棒だけでは支えきれず、再び破損する可能性が高いと判断し、新たな金属製芯棒を設置し、破損部を接着剤で固定した。破損部を確実に固定するとともに外観を損なうことなく修復することに重点を置き、処置が行われた。

## マルク・シャガール 《二重肖像》

1924年 油彩・キャンヴァス 130.0×100.0cm

### 【損傷状態】

画面に剥離・剥落箇所が複数個所見られ、またキャンヴァス地と裏打ちした耳がはがれてる箇所があった。

### 【修復処置】

剥離・剥落箇所にBEVAを塗布し、接着・固定。キャンヴァス地と裏打ちした耳がはがれてる箇所も同じくBEVAにより修復した。

## <害虫調査>

収蔵庫および常設展示室・企画展示室100ヶ所にトラップを仕掛け、害虫調査を行った。その結果、文化財害虫の発見はなかった。

作品を収集するにあたっては、サイズ・材質・形状、作品の状態などの作品に即したデータの採取のほか、作者・作品名・制作年・出品歴・所蔵歴などの作品に係わる歴史・文献的な情報の調査も行っている。これらの情報は、作品研究の基礎となるものであるが、収蔵時にすべてが明らかにできない作品もある。このような作品は、収蔵後も機会あるごとに追跡調査や情報収集を行って、不明な事項や新しい事実を明らかにするように努めている。

(1) 作家表記変更

① 現行：芥川紗織

改訂：芥川(間所) 紗織

理由：作家が「芥川」姓で発表した作品も「間所」姓で発表した作品も同一作家の作品であることを明確に示すため併記とした。

② 現行：大沢鉦一郎

改訂：大澤鉦一郎

理由：調査による

③ 現行：佐分真

改訂：佐分眞

理由：調査による

④ 現行：星野真吾

改訂：星野眞吾

理由：調査による

(2) 作家生没年変更

① 池田龍雄 現行：(1928- )

改訂：(1928-2020)

理由：作家の逝去

② 中井勝郎 現行：(1935- )

改訂：(1935-2014)

理由：作家の逝去

③ マヌエル・フェルゲレス 現行：(1928- )

改訂：(1928-2020)

理由：作家の逝去

(3) 作品タイトル変更

- ① 現行：河原温 《14 JUL. 1986》  
改訂：日本語タイトル：《14 JUL. 1986 Todayシリーズ（1966-2013）より》  
理由：著作権者の意向  
備考：全てのTodayシリーズ作品に「Todayシリーズ（1966-2013）より」をつける。
- ② 現行：川合玉堂 《秋嶺白雲》《View of Autumn; White Cloud and Mountains》  
改訂：英語タイトル：《White Cloud on Beautiful Mountains in Autumn》  
理由：表記統一
- ③ 現行：エヴァ・サロ 《地図／再生》《Map/Recycling》  
改訂：日本語タイトル：《地図／再利用—展開》  
英語タイトル：《Maps/Recycling - Unfolding》  
理由：作家の意向。「Unfolding」は作品裏の表記による。
- ④ 現行：ダビッド・アルファロ・シケイロス 《カウテモックの像》  
改訂：日本語タイトル：《カウテモックの肖像》  
理由：表記統一

(4) 作品制作年等変更

- ① 現行：荻須高德 《アムステルダム運河》1956年  
改訂：1954年  
理由：著作権者による教示
- ② 現行：イサム・ノグチ 《死すべきもの》1959-62年  
改訂：1959/62 (1988)年  
理由：鋳造年を追記（カッコ内）
- ③ 現行：ジャクソン・ポロック 《ナンバー 27》1964年  
改訂：1951 (1964)年  
理由：原版の制作年を追記

(5) 作品タイトル・作品制作年変更

- ① 現行：荻須高德 《洗濯場（オーベルヴィリエ）》《Laundry》1958-59年  
改訂：英語タイトル：《Laundry in Aubervilliers》  
仏語タイトル：《"Lavoir" d'Aubervilliers》  
制作年：1958年  
理由：著作権者の意向

収蔵資料貸出（令和2年度）

作家名	作品名	貸出期間・貸出先	展覧会名・展示期間
三岸好太郎	《構図(暖炉のある静物)》	令和元年12月1日～令和2年4月18日 公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館	「シュルレアリスムと絵画-ダリ、エルンストと日本の「シュール」展」 令和元年12月15日～令和2年4月5日
	《海と射光》		
北脇昇	《鳥獣曼荼羅》		
	《春に合掌す》		
下郷羊雄	《祭礼風の構成》	令和2年2月4日～4月28日 練馬区立美術館	「津田青楓とあゆむ明治大正昭和展」 令和2年2月21日～4月12日
	《着衣婦人》		
キスリング	《ルネ・キスリング夫人の肖像》	令和2年2月3日～7月5日 奥田元宋・小由女美術館 北海道立近代美術館	「キスリング展」 【広島】令和2年2月22日～4月10日 【札幌】令和2年4月25日～6月21日
キスリング	《マルセル・シャンタルの肖像》	令和2年7月2日～11月8日 鹿児島市立美術館 美術館「えき」KYOTO	「キスリング展」 【鹿児島】令和2年7月17日～9月6日 【京都】令和2年9月12日～10月25日
草間彌生	《ピンクボート》	令和2年7月2日～令和3年1月23日 森美術館	「STARS展：現代美術のスターたち・日本から世界へ」 令和2年7月31日～令和3年1月3日
下郷羊雄	《指の上のローソク》	令和2年10月7日～令和3年2月3日 川崎市岡本太郎美術館	「クルト・セリグマンと岡本太郎」展 令和2年10月24日～令和3年1月24日
	《ブーメラン》		
	《作品》		
モーリス・ド・ヴラマンク	《雪の村》	令和2年11月6日～令和3年2月5日 愛媛県美術館	「名古屋市美術館所蔵 エコール・ド・パリの色と形展」 令和2年11月14日～令和3年1月31日
モーリス・ユトリロ	《ラバン・アジール》		
荻須高德	《サン・ドニ河岸》		
荻須高德	《洗濯場(オーベルヴィリエ)》		
荻須高德	《アムステルダム運河の運河》		
ハイム・スーチン	《セレの風景》		
ハイム・スーチン	《鳥のいる静物》		
ハイム・スーチン	《農家の娘》		
キース・ヴァン・ドンゲン	《コルセットの女》		
キスリング	《ルネ・キスリング夫人の肖像》		
荻須高德	《ボールガール通り》		
岡鹿之助	《魚》		
太田三郎	《モデルたち》		
マリー・ローランサン	《アポリネールの娘》		
藤田嗣治	《自画像》		
海老原喜之助	《群鳥》		
モーリス・ユトリロ	《マルカデ通り》		
モーリス・ユトリロ	《ノルヴァン通り》		
藤田嗣治	《夢》		
ジュール・パスキン	《クララとジュヌヴィエーヴ》		
ジュール・パスキン	《横たわるエリアーヌ》		
アメデオ・モディリアーニ	《立てる裸婦(カリアティードのための習作)》		
ジュール・パスキン	《美しきツレिका》		
ジュール・パスキン	《娘と騎手》		
ジュール・パスキン	《ヴィーナスへのオマージュ》		



ジュール・パスキン	《ヴィーナスへのオマージュ》	令和2年11月6日～令和3年2月5日 愛媛県美術館	「名古屋市美術館所蔵 エコール・ド・パリの色と形展」 令和2年11月14日～令和3年1月31日
マルク・シャガール	『寓話』より		
マルク・シャガール	『寓話』より		
海老原喜之助	《風景》		
マルク・シャガール	『聖書』より		
マルク・シャガール	『聖書』より		
ジュール・パスキン	《マダガスカルの貴族(クレオルの貴族)》		
マルク・シャガール	『聖書』より		
マルク・シャガール	『聖書』より		
マルク・シャガール	『聖書』より		
マルク・シャガール	『聖書』より		
マルク・シャガール	『聖書』より		
マルク・シャガール	『聖書』より		
マルク・シャガール	『聖書』より		
マルク・シャガール	『聖書』より		
藤田嗣治	《二人の祈り》		
ジュール・パスキン	《街路にて》		
マルク・シャガール	『死せる魂』より		
ジュール・パスキン	《キューバ人》		
マルク・シャガール	『死せる魂』より		
ジュール・パスキン	《サロメ、サロメ》		
ジュール・パスキン	《ジャズ・バンド》		
佐分真	《静物》		
キスリング	《新聞のある静物》		
藤田嗣治	《風景》		
佐分真	《風景》		
ディエゴ・リベラ	《スペイン風景(トレド)》		
パブロ・ピカソ	《女》		
ジュール・パスキン	《幾何学》		
ジュール・パスキン	《きせるをふかす女》		
東郷青児	《帽子をかむった男(歩く女)》		
オシップ・ザッキン	《扇を持つ女》		
藤田嗣治	《家族の肖像》		
ディエゴ・リベラ	《自画像》		
ディエゴ・リベラ	《アマリア・カスティリョ・レドンの肖像》		
ジュール・パスキン	《若い男》		
マルク・シャガール	『死せる魂』より		
佐分真	[スケッチブックI]		
佐分真	[スケッチブックII]		
佐分真	《裸婦》		
佐分真	[スケッチブック断簡5]		
太田三郎	《窓辺》		
佐分真	《食後》		

藤田嗣治	《ベルギーの婦人》	令和2年11月6日～令和3年2月5日 愛媛県美術館	「名古屋市美術館所蔵 エコール・ド・パリの色と形展」 令和2年11月14日～令和3年1月31日
田中保	《ソリタ・ソラノの肖像》		
ディエゴ・リベラ	《ヘンリー・ノーウェップの肖像》		
マルク・シャガール	《二重肖像》		
ディエゴ・リベラ	《大地の果实》		
ディエゴ・リベラ	《夢》		
アメデオ・モディリアーニ	《おさげ髪の少女》		
マリー・ローランサン	《横たわる裸婦》		
マリー・ローランサン	《サーカスにて》		
ジュール・パスキン	《美しきヨーロッパ婦人》		
ジュール・パスキン	《夜とざす》		
大橋松太郎	【受託作品】題不詳(高原の白樺の樹)		
大橋松太郎	【受託作品】題不詳(農家)		
松浦幸陽	《若葉の光》 (【特別資料】写真画集『白陽』第1巻第4号掲載)		
唐健吾	《淡い光》 (【特別資料】写真画集『白陽』第2巻第7号掲載)		
唐健吾	《霧の山》 (【特別資料】写真画集『白陽』第2巻第9号掲載)		
唐健吾	《自画像》 (【特別資料】写真画集『白陽』第2巻第10号掲載)		
唐武	《初夏》 (【特別資料】写真画集『白陽』第3巻第6号掲載)		
岡崎平七	《手代森村の秋》 (【特別資料】写真画集『白陽』第3巻第6号掲載)		
佐藤長春	《奥羽路の雪》 (【特別資料】写真画集『白陽』第4巻第1号掲載)		
高田皆義	《風景》 (【特別資料】写真画集『白陽』第4巻第3号掲載)		
岡崎平七	《森》 (【特別資料】写真画集『白陽』第4巻第3号掲載)		
唐武/松下半治/佐藤長春	《静物》/《薄霧》/《里訪ふ冬》 (【特別資料】写真画集『白陽』第4巻第3号掲載)		
唐武	《樹と光》 (【特別資料】写真画集『白陽』第4巻第5号掲載)		
川村長次郎	《吹雪の後》 (【特別資料】写真画集『白陽』第4巻第5号掲載)		

岡崎平七	《朝》 （【特別資料】写真画集『白陽』第4巻第6号掲載）	令和3年1月4日～2月26日 岩手県立美術館	企画展「唐武と芸術写真の時代」 令和3年1月16日～2月14日
田口忠太郎	《雪に射す光》 （【特別資料】写真画集『白陽』第4巻第6号掲載）		
唐武	《コンストラクション》 （【特別資料】写真画集『白陽』第4巻第7号掲載）		
高田皆義	《静物》 （【特別資料】写真画集『白陽』第5巻第5号掲載）		
唐武	《コンストラクション》 （【特別資料】写真画集『白陽』第5巻第6号掲載）		
佐藤長春	《風景》 （【特別資料】写真画集『白陽』第5巻第7号掲載）		
高橋信一	《北の国》 （【特別資料】写真画集『白陽』第5巻第7号掲載）		
川村長次郎	《無題》 （【特別資料】写真画集『白陽』第5巻第7号掲載）	令和3年1月17日～3月27日 一宮市三岸節子記念美術館	企画展「自画像展 ～ひとみの中に自分がいる～」 令和3年1月30日～3月14日
佐分真	《自画像》		
杉本健吉	《自画像》		
鬼頭鍋三郎	《自画像》		
市野長之介	《自画像》		
鶴田吾郎	《自画像》	令和3年2月3日～3月31日 鳥取県立博物館	「生誕110年 岡本太郎ーパリから東京へ」展 令和3年2月11日～3月21日
下郷羊雄	《ブーメラン》		
	《指の上のローソク》 《作品》		
坂田稔	【受託作品】《球体について》	令和2年12月7日～令和3年3月31日 福岡市美術館	「ソシエテ・イルフは前進する 福岡の前衛写真と絵画」 令和3年1月5日～3月21日
	【受託作品】《嫉妬》		
	【受託作品】題不詳(水滴による構成)		
	【受託作品】題不詳(石による構成)		

### (1)名称

ゆめ・プレミアムアートコレクション寄附金事業

### (2)趣旨

優れた美術品の収集、所蔵作品の修復をするため、寄附金を集めるもの。令和元年度から「東山動物園猛獣画廊壁画修復募金」を開始し、令和5年度「名古屋市美術館開館35周年」での修復後の壁画の公開を目指す。

### (3)寄附金の概要

1口1,000円以上。特典として、名古屋市外在住の5,000円以上の個人の寄附者には、常設展1年間定期観覧券(大人1,200円)を進呈。

### (4)目標額

令和5年度に10,000,000円。(学生向け優待制度の一部金額も含む)

### (5)寄附金受入状況(令和3年3月31日現在)

令和2年度：29件、667,798円  
累計：287件、18,437,025円

### (6)寄附金の活用

平成30年度に寄附金13,000,000円を活用し、開館30周年記念作品として、藤田嗣治《ベルギーの婦人》を購入した。

名古屋市美術館  
東山動物園猛獣画廊壁画修復募金

ゆめ スレミアムアートコレクション  
PREMIUM ART COLLECTION  
寄附金事業

名古屋市美術館では、「ゆめ プレミアムアートコレクション寄附金事業」として、「東山動物園猛獣画廊壁画修復募金」を開始します。

第2次世界大戦中、東山動物園の動物は殺処分などにより激減しました。1948年、中京新聞社の提唱により、猛獣のいない寂しさを補う目的で、動物不在の歌合に「猛獣画廊」が開設されました。世界の動物の生態を紹介する3点の壁画が、大田三郎、水谷清、宮本三郎の画家3氏によって描かれ、猛獣画廊で公開されました。

動物の飼育数が回復するに従って役目を終えた壁画は、現在名古屋市美術館に保管されています。しかし収蔵当初から損傷が激しく、良好な状態で保存、展示するために修復が必要な状況でした。皆様からいただいた寄附金を、この壁画の修復に活用させていただき、本市の貴重な文化財があるべき姿で後世に伝えていきたいと考えています。目標額は1000万円で、令和5年度「名古屋市美術館開館35周年」での修復後の壁画の公開をめざします。

どうぞ、皆様のご協力をお願いします。

大田三郎《東山動物園猛獣画廊壁画 No.1》  
1948年 油彩・キャンバス 141.0×540.0cm

※「ゆめ プレミアムアートコレクション寄附金事業」は、ふるさと納税の対象(税の控除)となります。寄附の方法等詳細につきましては「ゆめ プレミアムアートコレクション寄附金事業」のリーフレットをご覧ください。

お問い合わせ  
名古屋市美術館 総務課  
〒460-0008 名古屋市中央区栄二丁目17番26号  
TEL 052-212-0001 (FAX 052-1770011) 01152001 122

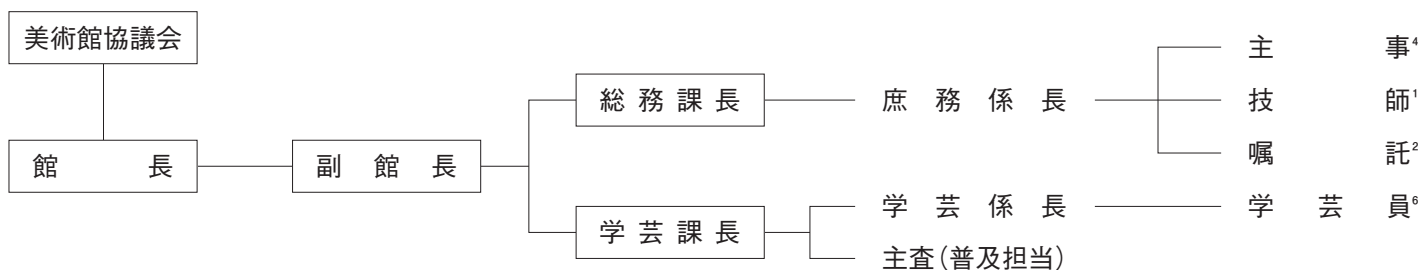
# 入館者一覽 VISITOR

展 覽 会 名	開催期間	開催日数 (日)	有 料			無 料			入場者 総 数 (名)	
			一般	高大生	有料小計	招待券等	中学生以下	無料小計		
常 設 展	令和3年 1月5日(火)～ 令和3年 3月14日(日)	58	1,087	362	1,449	5,389	127	5,516	6,965	
特 別 展	みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ一線の 魔術	令和2年 4月25日(土)～ 令和2年 6月28日(日)	0	0	0	0	0	0	0	
	「写真の都」物語 —名古屋写真運動史: 1911-1972—	令和3年 2月6日(土)～ 令和3年 3月28日(日)	44	2,506	405	2,911	1,956	157	2,113	5,024
	アートとめぐるはるの旅	令和3年 3月25日(木)～ 令和3年 6月6日(日)	6	333	64	397	79	183	262	659
	特 別 展 小 計		50	2,839	469	3,308	2,035	340	2,375	5,683
合 計			3,926	831	4,757	7,424	467	7,891	12,648	
									教育普及事業参加者 (展示室内参加者を除く)	676
									総 計	13,324

## 〈年度別入館者数等〉

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	累 計	
展 覧 会	常 設 展	開催日数	192日	252日	230日	58日	8,932日
		入場者数	77,850人	186,191人	110,631人	6,965人	4,269,967人
	特 別 展	開催日数	192日	252日	200日	50日	6,914日
		入場者数	121,970人	410,366人	245,510人	5,683人	8,523,453人
	入 場 者 小 計		199,820人	596,557人	356,141人	12,648人	12,793,420人
教育普及事業参加者		17,471人	26,897人	16,259人	676人	734,380人	
入 館 者 合 計		217,291人	623,454人	372,400人	13,324人	13,527,800人	

## 1 組織図



## 2 美術館協議会

### (1)名古屋市美術館協議会委員

名古屋市立大須小学校長	武田 雅子	愛知県私学協会文化部長	伊藤 俊典
愛知県立旭丘高等学校長	杉山 賢純	公益財団法人名古屋市文化振興事業団専務理事兼事務局長	柵木 厚
名古屋市立大学大学院人間文化研究科准教授	宮下さおり	名古屋市地域女性団体連絡協議会書記	広瀬多恵子
名古屋市立小中学校PTA協議会理事	鈴木智香子	公募委員	大曲 春菜
愛知県立芸術大学美術学部教授	小西 信之	名古屋商工会議所文化・観光委員会副委員長	滝 茂夫
愛知県美術館長	南 雄介	名古屋造形大学准教授	濱田 樹里
名古屋造形大学教授	高橋 綾子	株式会社JTB執行役員法人事業本部副本部長	松本 博

### (2)名古屋市美術館協議会開催状況

日 時	協 議 題
第1回定例会 令和2年8月21日(金)から 令和2年9月11日(金)まで	○令和元年度事業実施結果について ○令和2年度事業計画案について
第2回定例会 令和3年3月25日(木)から 令和3年3月30日(火)まで	○令和2年度事業実施状況について ○令和3年度事業計画案について

※感染症対策のため書面会議により開催

## 3 職 員

館 長	早瀬 弘親	学芸課長	井口 智子
副館長	深谷 克典	学芸係長	保崎 裕徳
総務課長	佐藤 規子	主査(普及)	竹内 智哉
庶務係長	太田 重弘	学芸員	角田美奈子
主 事	西村 弘		竹葉 丈
	川上 英美		中村 暁子
	木村 進也		清家 三智
	黄 直子		森本 陽香
	平野 晃成		勝田 琴絵
技 師 嘱 託	秦 久美子		
	千田 智治		

## 4 運営予算

総予算費	内 訳	
203,264千円	特別展関係費	63,309千円
	常設展運営費	21,076千円
	資料関係費	2,588千円
	教育普及事業費	7,239千円
	調査研究費	364千円
	管 理 費	108,688千円

令和2年度名古屋市美術館年報

発行日

令和3年9月

編集・発行

名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号  
(芸術と科学の杜・白川公園内)

TEL 052-212-0001

FAX 052-212-0005

# 名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号

Tel.052-212-0001 Fax.052-212-0005